

Cosmic Philosophy & UFOs



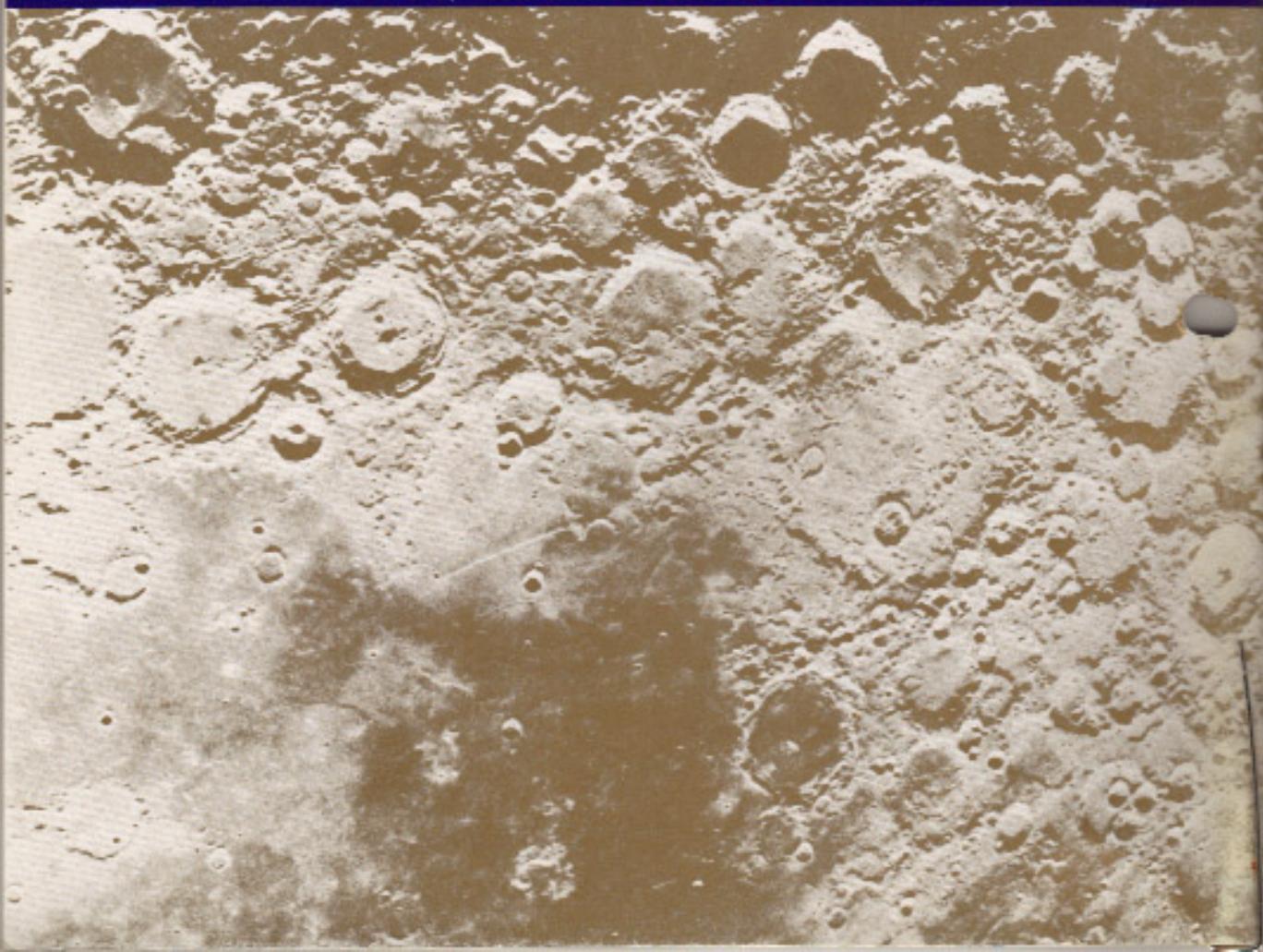
GAP-JAPAN
NEWSLETTER

宇宙哲学とUFO

月はUFOの基地!?
私は異星人に守られている
美しき惑星の思い出
テレパシー開発法

SUMMER
1983

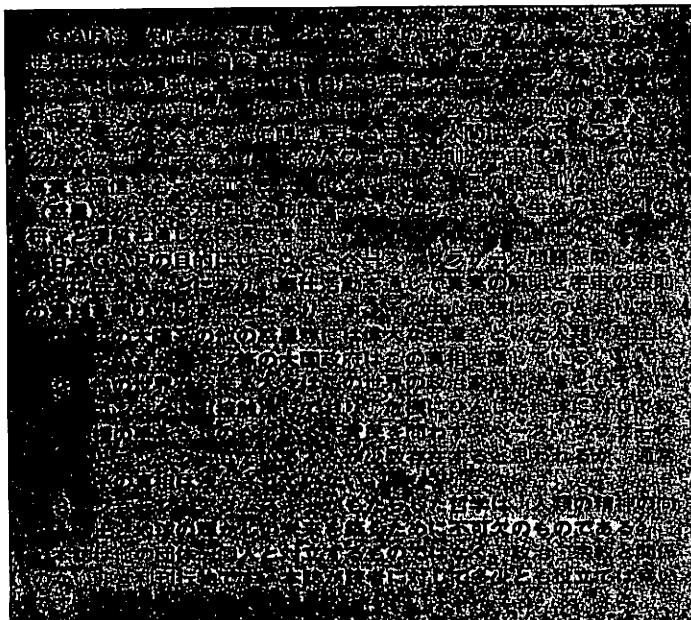
81



| | |
|---------------------------|--------------|
| <巻頭言>アダムスキーは炎となり | 1 |
| 月はUFOの基地!? | 久保田八郎 2 |
| 私は異星人に守られている | 岩崎敏夫 10 |
| 美しい惑星の思い出(2) | 中川真理子 16 |
| <さらば空飛ぶ円盤(9)> | |
| 形而上学、心靈学、宗教 | G. アダムスキー 22 |
| <改訳>テレパシー開発法 | G. アダムスキー 26 |
| 日本GAP機関誌80号、静岡支部報50号発行記念会 | 32 |
| 北海道特別夕食会、第4回松山支部大会 | 33 |
| 読者の声「コズミック・ポスト」 | 34 |
| <予告>昭和58年度地方支部大会(その2) | 35 |
| 「エルサレム宇宙考古学の旅」説明会案内 | 36 |
| <予告>エルサレム宇宙考古学の旅 | 38 |
| 日本GAP全国月例研究会案内 | 40 |



GAPとは



■表紙写真は月面の「雲の海」に
統いて古い地形を示す高地帯。
パロマ一天文台撮影。

近来一部のUFO研究家たちによるアダムスキー非難が高まっていると聞いている。むかしからそうだったが、この非難攻撃は、惑星探査機によって太陽系の地球以外の惑星に人間のような知的生命体は存在しないことが判明した。という時点から激烈になつたらしい。

うるさいほど繰り返すことだが、これら一連の惑星探査機による調査結果として米ソ両国の当局から流される情報なるものはきわめて信憑性に乏しくて、そのまま鵜呑みにするわけにはゆかない。ある。彼らは他の惑星に関する重大なきわまりない情報をひた隠しにしているのだ。本号のトップ記事「月面はUFOの基地！」にしても、アダムスキーの体験記の内容が眞実であることを裏付けている。あの記事はれつきとした情報にもとづいて書かれたもので、この資料はまだ日本では翻訳出版されていないと思う。加うるに、編者をも含む人々の非常に特殊な「体験」により、この太陽系の地球以外の各惑星に偉大な文明を築いた人類が存在していることは疑い得ない事実と考えられるのである。

だが想像を絶した高度な進化をとげたこの「異星人」は、みずから存在を全地球上に容易に示さない。これは地球上に恐怖を植えつけて大混乱を発生させぬようにという配慮にもとづいているためのようだ。そして地球の大國の為政者の人々も太陽系の地球以外の惑星に偉

大な人類が存在することを知つてゐるけれども、政策上どうしようもないのだと、先年アメリカで聞いたことがある。

多年アダムスキー支持活動をやってきた結果、編者はある興味深い事実に気づいている。アダムスキーの体験記の内容を事実と信じて支持するか、それともあたまから否定して嘲笑するかは、個人のいわゆる学識教養とは関係なしにきまるという事実である。これは高度な学問を身につけている人に信ずる人が少なく、そではない人が信じやすいという意味ではなく、吸収している既成の知識の如何にかかわらず、信ずる人は信ずるし、信

アダムスキーなり



のである。特にある種の学者や政治家の

名を列挙すれば、言いたい放題のことを盲呴しているUFO研究家こそ自分が素朴（生まれかわり）という思想も関連して

人間の世界においてだれが賢明でだれが愚劣であるかを判定することは人間自身にとってむつかしいことなので、いち

がいに人間の「程度」を中心古車のことく

ランクづけるわけにはゆかない。しかも地球人の知識たるや大同小異で、さほど差はない。高度な学校教育を受けなくとも驚くほどの知識と技術を持つ人はざらにいる。

しかし、通常、人間が気づいていないある法則が存在し、これによつて人間の持つ「何か」に差が出てくると考えられている分野がある。それは次のとおりだ。

個人が一生涯において何かの物事に打ち込むようになり、抜群の業績をあげる場合、それは必ずしも今生（この生涯）だけの努力と研鑽の結果ばかりではなく、

過去世から持ち越してきた知識や実績などの影響もあるという考え方で、これをわれわれは宇宙哲学的に「過去世からのカルマ」と呼んでいるのである。業績ばかりではなく今生における一個人の思想や生活環境なども、大体に過去世からのカルマの影響によるという。

したがつてアダムスキーを「素朴な人々をだました詐欺師」と呼ぶUFO研究家の表現はあまりにも感情的であつて妥当ではない。なぜなら、いわゆる一流大学出身者でもアダムスキー問題を信じる人はいるし、学歴の低い人も信じない人は信じない、という実状なのである。

したがつてアダムスキーを「素朴な人々をだました詐欺師」と呼ぶUFO研究家の表現はあまりにも感情的であつて妥当ではない。なぜなら、いわゆる一流大学出身者でもアダムスキー問題を信じる人はいるし、学歴の低い人も信じない人は信じない、という実状なのである。

るのである。

これはきわめて一般受けしない哲學的思惟であり、またこれにともなつて転生（生まれかわり）という思想も関連して複雑になるので、ここでは詳述できないが、この問題はいずれ二十一世紀の重要な課題となるだろう。

アダムスキー問題に関しては、この「過去世からのカルマ」が不可欠な要素をなしてゐるようだ。同じような環境に育ち、同じようなIQで一緒に教育を受けながら、Aは文句なしにアダムスキーの体験記を受け入れ、Bは中間の懷疑派となり、Cはまつこうから否定して反対論者となる。これは知能の差ではなく、感覚の差といえるのだろうが、その感覚の奥には不可解な神祕的要素がひそんでゐる。としか思えない。

以上の説は科学的に解明されたわけではないので、科学一辺倒側からみればまたも否定のタネになるかもしれない。しかし数百年、数千年後には科学で立証されるだろう。偉大な惑星の人々はすでに科学的に解明しているらしい。

ひとつ言えることは、アダムスキーの膨大な文献の内容はおそらく深遠であり、現代の学問のレベルをはるかに超えているという点である。だがある宇宙開発科学技術者によると、地球の科学はアダムスキーがむかし述べた別な惑星の宇宙船の有する科学技術の方向へ間違いなく進展しつつあるという。これからみても空想であれほどのすごい体験記が書けははずはないといふことである。

世からのカルマに負つてゐると考えられるが、いずれも立場上、公言しない

月はUFOの基地!

日本GAP会長

久保田八郎

アポロ宇宙飛行士たちが月面で見た
不思議な建造物は何を意味するか?
月世界の驚異的事実をここに暴露!

●アポロ17号の宇宙船

「おい、すごい物があるぞ!」

「何だ、何を見たのか?」

「月面上のすごい物体だ」

「その異常な物はどこにあるのか? す

ぐ知させてくれ」

「あんたが次に上空を通過するとき知ら
せよう」

一九七二年十一月、アメリカの月探険
アポロ計画の最後を飾る宇宙船アポロ十
七号が月の「静かの海」付近のタウルス
・リトロウ渓谷に着陸して、月面に降り
立ったユージン・サーナンは、「驚愕」して
司令船のパイロット、エバンズに呼びか
けた。巨大なUFOを見て腰を抜かした
のだ。

報告を受けたロナルド・E・エバンズ
は目を皿のようにして下方を見つめた。
「やーー、着地点に輝く物が一つ見える
ぞ。彼らが何かを燃やしたのかも知れな
い!」

エバンズは米本土ヒューストンの管制
センターに向かつてとなつた。「彼ら」
というのは月面に降りたアメリカ人たち
ではなく、他の“何者か”を意味するら
しい。

センターから声が返ってきた。

「了解。おもしろいぞ」

「わーー、信じられないことだ。いま
オリエンタルの線の真上にいるんだが、
下を見たら、また閃光が見えたんだ」

「了解。わかった」

「小川の端の所だ」

「また確認するチャンスはあるか?」

「オリエンタルの東側だ」

「ウォストーク(ソ連の宇宙船)ではな

いのか?」

「絶対に違う、地図でその位置を確認
する必要がある」

エバンズも月面上に輝く大UFOを目
撃して、興奮しながらヒューストンへ連
絡した。この文書では「キロ」とか「ブ
ラーボ」という暗号が使用されたが、こ
れは月面上のUFOを意味する語だ。ア
ポロ十七号による月探険行で結局エバ
ンズはUFOを「回見たし、同行した科学
者のシミュミットも一回見た」。

だが、いずれの宇宙飛行士も嚴重な報
告により、地球へ帰還後は黙秘して語
らなかつた。アポロ十七号だけではない。それ以前
の一連のアポロ関係宇宙飛行士たちもほ
とんど全員が、宇宙飛行中または月面で、
UFOその他の構築物を目撲しているの
だが、「他言してはならぬ」と厳命され
ている」と、トップクラスの宇宙開発科
学者ゲリー・ヘンダーソン博士が言つ
ている。

結局、アポロ宇宙飛行士たちの月面着
陸の模様や会話は、いつたんアメリカの
センターでチェックされて、UFO目撲
などの異常な体験に関する部分はひそか
に削除され、さしきりのない箇所だけ
をつなぎ合わせて、ディレイド・シス
テム(時間的に少し遅らせて公開するシス
テム)により世界のテレビ画面に流して
いるのである。

こうして地球人のほぼ全部が、月面に
は何もない信じきっている実態には驚
くほかない。米当局の隠蔽策はまんまと
國に当たつた。

宇宙空間のホタル火現象

前出の宇宙飛行士たちの文書記録は極秘裡に保管されているのだが、アメリカの研究家ドン・ウィルソンが多数の秘密情報類を入手して、Our Mysterious Spaceship Moon(謎の宇宙船「月」)と題する著書で公開した。これは驚嘆すべき内容を含む書物だが、なぜか一般に広まらなかつた。それよりもアメリカが実施した壮大なアポロ計画による月着陸の大実験自体がもはや風化してしまい、人々の記憶から薄れてしまつたので、月面で何があつたのか、大衆はせんざくもしない。こうして一連の驚異的な事実は聞かし聞に葬られてしまつた。

アメリカの初期の有人飛行計画であるマーキュリー計画では、まずチンパンジーでテストしたあと、一九六一年五月五日にはシェパード中佐のMR三号、七月二十一日にはグリソム大尉のMR四号が約十五分ずつの弾道飛行をなしとげた。これが有人弾道飛行の最初で、統いて六二年二月にジョン・グレン中佐の乗り込んだフレンドシップ七号が地球をまわる有人軌道飛行に成功し、グレンは一躍英雄となつた。

地球へ帰還後、グレンは驚くべき事實を発表した。暗黒の宇宙空間にホタル火のような沢山の発光体が浮遊するのを目撃したという。これはすでに出まわつて

いたジョージ・アダムスキの「宇宙から訪問者」に述べられた記述と一致するというので、当時わが国でも週刊誌など

どが大々的に取り上げて報道した。世界のUFO研究界でもアダムスキの眞実性が立証されたとして話題になつたものだ。

これにこりた米当局は、以後宇宙飛行士にたいして、よけいなことをしゃべるなど嚴命するようになつたといわれている。

前年の六一年五月、ときの米大統領ケネディーは議会で演説をし、六〇年代末までにアメリカは月に人間を着陸させると言明。これにより月着陸有人飛行計画が決定して、宇宙開発科学者の総力を結集してスタートした。

その前にマーキュリー計画を受け継いだジェミニ計画なるものが六五年から六年にかけて実施され、一、二号は無人、二号で有人飛行になり、六六年十一月の十二号まで成功している。これは軌道上の宇宙船同士のランデブーとドッキングの実験を主体にしたもので、このあとアポロ計画へと移行したのである。

宇宙飛行士たちは頻繁にUFOを見た

大気圏外へ飛び出た男で最初にUFOを目撃したのは、マーキュリー計画でフエイス七号に乗つて地球を回る軌道に乗つたゴードン・クーパー少佐である。

一九六三年五月十五日、ハワイ上空を四回目に通過中、彼は奇妙な言葉を受信した。この録音テープは帰還後NASA(米航空宇宙局)の言語専門家が分析したけれども、地球上のいかなる言語でも

不思議な体験はこれだけではない。彼が地球を回る最後の飛行としてオーストラリアのパース上空を飛んでいたとき、不気味な物体が接近して来るのを見てキモをつぶしたのである。このUFOはパース付近の追跡ステーションにいた二百名をこえる人々も目撃している。

「かなり大きな物体で、私の位置よりは高度にあつた。このボギーは星その他の自然物、または地球の人工の物体でもない」とクーパーは述懐している。「いままで地球のまわりであまりにも多くの不可解な未確認物体の目撃例があつたので、地球以外に高度な知的生命体が存在することはもう否定できないんだ」

ボギーというのはNASAで使用している暗号で、UFOを意味する。彼らはUFOという言葉を使用しないで種々の暗号を用いて交信したのだ。

マーキュリー計画終了後、前述のよう

にジェミニ計画が始まった。ジェミニと

は星座のふたご座のことと、衛星船はマーキュリーよりも一段と大型化して、重量三・二トン。タイタン二型ロケットで打ち上げる。

ところが、この宇宙船に乗り込んだ飛行士たちの全員も大気圏外でUFOを見たのだ、NASA当局は極力否定し続いたが、ついに宇宙飛行士によるUFO見目撃事件について公表した。それは六六年六月一日のことと、ジェミニ九号打ち

上げ後、突然電波妨害が発生して、宇宙飛行士たちは数度UFOを目撃したと申明したのである。

その前年の六月にさかのばると、軌道飛行中のジェミニ四号に乗つていたジエームズ・マクディビットとエドワード・ホワイトは、ハワイ上空を飛行中にタマゴ型の光る物体が接近して来るのを目撃し、それを映画に撮影した。このUFOから大きな腕のようなものが数本突き出していたという。

だが地上に帰還後、このフィルムはNASA当局が隠してしまい、あとで写真分析係が公開したときは、マクディビットが見た物体とは全然違う物に取り替えられていました。

統くジェミニ五号でもクーパーとコンラッドが三個のUFOを目撃し、七号になると宇宙飛行士フランク・ボーマンとジェームズ・ラベルが衛星船の近くに不思議な小型物体群と巨大なUFOを一機目撃した。これは六五年十二月のことと、それまでのアメリカによる宇宙開発史上最大の謎の一つとされた。

このときに乗員たちは宇宙空間に無数の光る微粒子が浮いているのを見た。これはグレン中佐の見たホタル火現象と同じものだ。

宇宙飛行士によるUFOの目撃例はまだ山のようにある。箇口令はしかれていても文書記録は地上の管制センターに残されるので、そこは神様ではなく人間の集まりのことゆえ、秘密にされていてもよせんは洩れるのである。

月面の驚異の物体！

こうしてアメリカの宇宙開発は着々と進展して、やがて月へ到達する日が来た

だれもいない筈の、死の世界と思われていた月世界に人間がいた！

「巨大な物体（複数）が見えるぞ。ああ

信じられないほどだ！」別な宇宙船群が

いるんだ。クレーターのむこう側の様に並んでる。月面上にいて、我々を見て

いるぞ！」

しかしこの驚異的な報告もNASAはひた隠しにして、地球へ帰還しても絶対にしゃべるなど二人に命令した。もちろんUFOが並んでいる場面はカットされ世界の茶の間のテレビに流されたのである。

六九年十一月十四日に打ち上げられたアポロ十二号も、まもなく二機のUFOにつきまとわざと船内の電気系統が故障した。しかもUFOの一機は長時間十二号と並行して飛んでいた。

アポロ十六号もデカルト・クレーターの付近に着陸したときに、白色とピンク色に輝く多数の丸い物体がいるのを、船長のジョン・ヤングと着陸船パイロットのチャールズ・デューケーが目撃して仰天した／一九七二年四月二十二日の文書で彼らは管制センターにこのことを伝えられた。上空を飛ぶ司令船キャスパーに乗つたトマス・マティングリーも、デカルトの地域に闪光を放つ物体を見ている。

ところがもつと驚異的な光景が展開したものだ！ センターへ報告するデューケーの声は

アームストロングとオルドリンの二人は失神しそうなほどに驚いた。「静かの海」の着陸地点の彼方に浮き上がったクレーターの縁に、なんと巨大なUFOがずらりと並んで、二人を見おろしている。

けれども、どっこい、すでに別な惑星かが、ここではもつと驚異的現象が待ち受けていた。最初に述べたアポロ十七号の月面におけるUFO発見もそうだが、月に第一歩を印した十一号のアームストロングが「これは人間にとつて小さな第一歩だが、人類にとつては偉大な飛躍だ」という有名な言葉を伝えたのはよかつたけれども、どっこい、すでに別な惑星か



▲月の裏側の人工建造物？（アポロ宇宙船より撮影）

は輪郭が見えない。北東の方にトンネル（複数）があり、北へむかってそのトンネルが約三十度曲がっているぞ」

この驚べき光景は、すでに何者かによつて月面上に人工的な建造物が建設されていた事実を示している。

ソ連がやつたのか？ 違う。当時ソ連も非公開でニューズ有人宇宙船により月着陸やドッキング、長期軌道飛行など一連の実験を続行していたが、月着陸でアメリカにはるかに先行してこのような建造物を設置するなどの技術や国力は到底なかつた。だいいち、ソ連が月に基地を設けるとすれば、もつと秘密裡にやるだろ。

着陸船オリオン号のデューケーは更にストーン山から外を見ながら“さえぎられた平地”“海岸”“ベンチ”などの奇怪な言葉を地上との交信で発している。しかも月面から百十二キロメートル上空を飛んでいる司令船のマティングリーも不思議な光景を見た。あるクレーターが大洪水のように見えて、何かの物質が外部へ流れ出しているとか、逆に内部に吸い込まれている部分もあるだの、外側のもつと高い部分（複数）の頂上にもそれがたまつているなどと伝えて、すごく不思議な光景だと述べている。

謎の「トラック」の意味

アポロ十七号が月に着陸して巨大なUFOに遭遇したことは最初に述べたが、飛行士たちは水の跡も発見している。鮮明な水流の水位マークを見つけたという

のだ。これからみると、月は水も何もなない固いコンクリートのような岩盤から成る世界だという古い天文学上の概念は完全に間違っていたようだ。というのは宇宙飛行士たちが歩いた月の地面は砂漠地帯で、しかも彼らのクツの跡まで鮮明に残るのだ。乾燥しきった砂ならばクツの裏の模様まで残るわけがない。おそらく湿地帯のような場所なのだろう。ということは砂地に水分が含まれているにちがいないのだ。

十七号のシユミット飛行士は興奮して叫んだ。

「トラック（複数）が見えるぞ！」 クレーターの壁まで続いている

この“トラック”という言葉が実際に何を意味しているのか、さっぱりわからないが、なにかの驚異的な人工建造物を見たことはたしかである。というのはアポロ十五号も七一年八月一日に不思議な物を月面を見て、これをやはり“トラック”と表現しているからだ。

アーウィンが管制センターと交わした記録は次のとおり。

「傾斜を降りるにつれて“トラック”があるぞ」

「その跡をつけてみろ」とセンター。

「了解。かなり長い。こんな物にはとても勝てないよ。ハドレー山上にまで敷かれているんだ。」

同僚のスコットも叫んだ。

「こりやすごい光景だ！」

「ほんとに美しいなあ」

センターが叫んだ。

「機構について話してみる」

「こんな見事な機道物は今まで見たことがないよ！」とアーウィン。

「幅がみな一定しているぞ」とスコット。

「各トラックの頂上から底まで、こうまで同じ高さでそろっているのを見たのは初めてだ！」とアーウィンが感嘆の声をあげる。

「いつたい二人は何を見たのか。」「トラックだけでは意味不明だが、途方もなく壮大な建造物を見たことはまちがいない。暗号でこまかしているのか。

十七号のシユミット飛行士の報告にたどり、暗号でこまかしているのか。

アーウィンの写真はピースとピースのいいだをいつているぞ。ピース・ブランバ。ブランボへ行け。ウイスキー、ウイスキーロメオ」

「きみの写真はピースとピースのいいだをいつているぞ。ピース・ブランバ。ブランボへ行け。ウイスキー、ウイスキーロメオ」

天文学者ハーシェルも光体を見た

月面上の不思議なドーム、その他の異なる物を発見したのは、宇宙飛行士たちが最初ではない。実は数世紀にわたって地球より望遠鏡で観測され確認されたのだ。特に多かったのは奇妙な光点の発生である。

イギリスのトップクラス天文学者パトリック・ムーアと、米アリゾナ大学の月現象について天文学者が報告した例は、過去四百年以上の長い時代にわたって、約四百例あるということになつていて。その観測者たちのほとんどすべては誠実

な学者であつたと、「サイエンス」誌に掲載された二人の論文で述べてある。その中で注目すべき報告例を「三挙げてみよう。

イギリス最大の天文学者の一人、ハーシュは、一七八三年の月食の最中に不可思議な輝く光体を望遠鏡で観測したと報告した。

（注）フレデリック・ウイリアム・ハーシュは一七三八年ドイツに生まれて後にイギリスで大成した大天文学者。天王星の発見者として名高い。

一七八七年八月十八日には、「灰で薄くおわれた炭火のような」輝く光点群を見たという。結局ハーシュは七度の機会に同じような光体を月面で発見したのである。そして「何者かが月面上の空間を移動しているようだ」と述べている。しかも一八二二年の十一月には一ヶ月のうちに彼は類似の光点群を月面に連続三回見た。

ハーシュはイギリスで宮廷

もともとハーシュはイギリスで宮廷音楽家であった。音楽理論で必要な数学を学び、更に光学を研究して望遠鏡に関心をもつようになつた人で、天文学は独学で身につけた、いわばアマチュアである。しかし好奇心と直感力は抜群で、

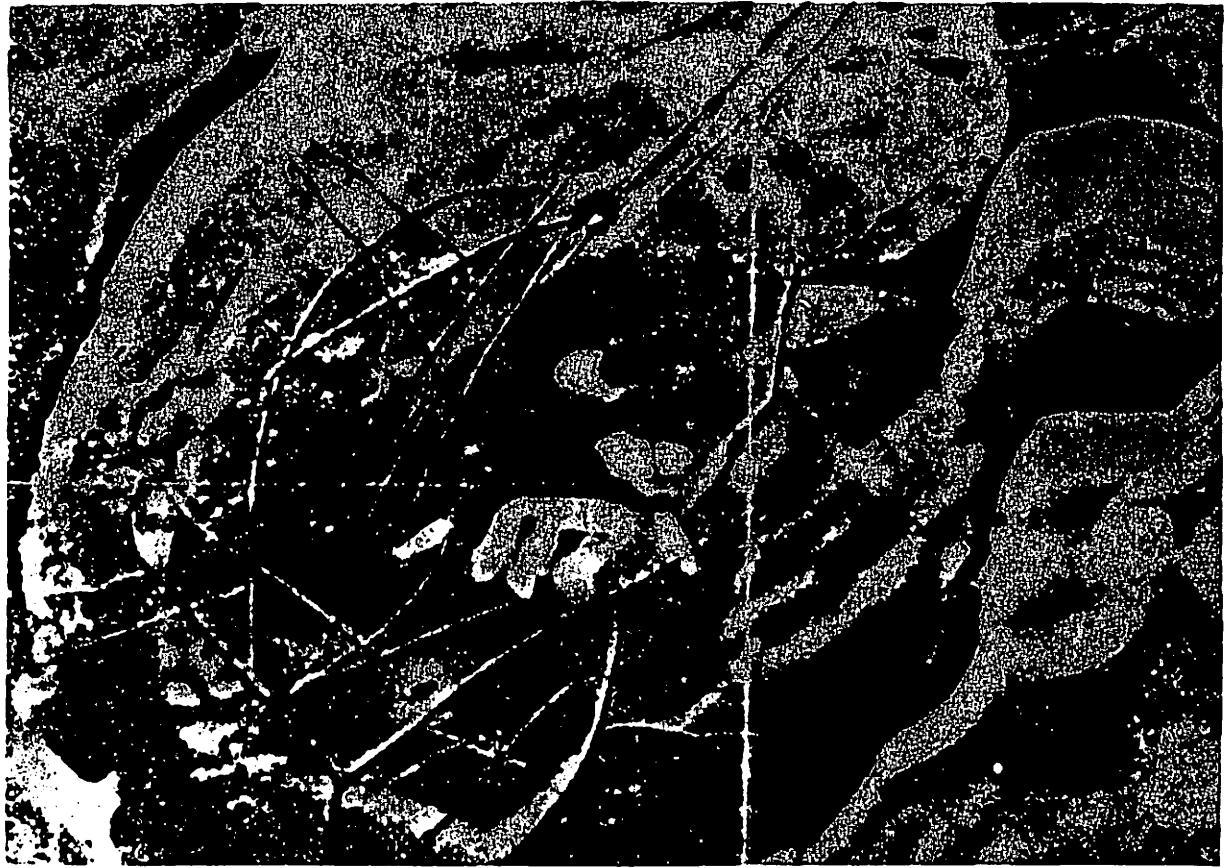
共に観測研究を統けて、実に二千三百個の星雲や星団を発見し、天文学史上不滅の名を残した。一八二二年に八十四歳で没し、妹は二十六年後に九十八歳で兄のあとを追つた。星雲の発見には妹の力が大きかったといわれている。

巨大な謎のオニール橋

その他にも月面における不思議な光体の発見例は沢山ある。「世界の天文学者はUFOを見ていない」という脱はまつかなウソだ。古くは一五八七年の五月にイギリスの科学者が、新月の両端の中間に輝く光点を発見したと報告している。以来十七世紀、十八世紀、十九世紀を通じて月面の奇妙な光体現象が観測され続けた。一部の天文学者は月の火山活動だろうと推測したけれども、ハーシュも見たように移動する光体もあるので、火山活動としてはかたづけられない。知的生命体によって操作される、なにかの光体が月に存在していたとしか考えられない。

近代における月面の謎の現象で最大のものとして、名高い“オニール橋”がある。これも現代人に忘れられようとしているので、ここに実状を再録することにしよう。

今を去る三十年むかしの一九五三年七月二十九日の夜、ニューヨーク・ヘラルド・トリビューン紙の科学部長であったジョン・J・オニールは、愛用の三インチ屈折望遠鏡を持ち出して月の観測を開始した。目標は月面の東側のリム（縁）に



▲1930年代にアメリカのローウェル天文台が撮影した月のガッセンディー・クレーター。

内部に奇妙な白いスジが見える。人工建造物か？

近い「危機の海」である。海といつても本物の海ではなく、月面で黒く見える平坦部だ。

アイビース（接眼鏡）をのぞいているうちに、彼はハツとした。それまで見たこともない異様な物体が見えるのだ！ 高い山と山とのあいだに長さ約二十キロもある細長い物体が橋のように横たわっているではないか！

彼はわが目を疑つた。光学的なイルージョンではないかと思ったが、何度もぞいても物体は見えるのだ。そこは以前にたびたび観測した地域で、こんな物は存在しなかつた。

不思議な物の出現に首をひねりながらも彼はこの状況を月・惑星観測家協会へ報告し、「巨大な自然の橋」と書いた。だがこれは多数の天文学者の猛烈な攻撃的になつた。そんな物がその地域に存在するわけがないというのだ。

しかしも天文学者連は沈黙した。イギリスの高名な、月を専門とする当代一流の天文学者H・P・ウィルキンズもその巨大な“橋”を見たと公表したからである。群小のプロ・アマ天文学家を蹴散らしたライオンの出現というところか。彼はこの“橋”を「月面における最も驚くべき、謎の、人工建造物を思わせる現象の一つである」と述べている。

これに追いつきをかけたのがイギリス天文学協会のトップクラスの学者、パトリック・ムーアで、彼もこの不思議な物体を観測したと報告したのである。これでオニールは助かった。誤認の汚名を着せられずにすんだばかりか、この物体

は“オニール橋”と呼ばれて語りつがれることになった。

しかし既に続いた。この“橋”はオニールが発見してから忽然と姿を消したのである。これは到底自然現象とは思えない。明らかに人工的な物体である。

アダムスキーリーの体験は 眞実だった！

以上で読者はもうお気づきだろう。地球上人類が月へ到達するはるか以前から月世界には“だれかが”いたのだ。その“だれか”とは別な惑星から来た、月を基地としてひそかに居住し、活動していた異星人ではあるまいか。地球から望遠鏡で観測され続けた月面の“動く光体”とは、彼らの発光する宇宙船ではないか。そして巨大な“オニール橋”も異星から来た大母船ではなかつたか。

これについてはUFO研究界の大先駆者、ジョージ・アダムスキーリーが一九五五年に刊行した *Inside the Space Ships* 〔宇宙船の内部〕今年五月上旬、文久書林より刊行のアダムスキーリー全集第一巻、〔宇宙からの訪問者〕中に第二部として「宇宙船の内部」の中に、彼が土星の大母船に乗せられて宇宙空間から月面を観察した記録があり、これこそ過去の天文学上の観測や宇宙飛行士たちの月世界探検による驚異的目撃などで裏付けされていると思われる所以、次にその部分を掲げよう。

土星人パイロットが言う。「私たちは月からそう遠くない位置にいます」

この言葉を聞いて私は興奮に震えて、そこへ着陸するのではないかと思った。

「いいえ」と彼は言う。

「今日は着陸しません。月には空気があります。それを記録できるほど接近していますから、本船の装置によってそのことがわかります。

空気というものは本来他の天体を観察するのに障害にはならないのです。

地球からは月の上空を動いている厚い雲（複数）が見えますが、地球の科学者たちは、ときまたいわゆる「ゆるやかな空気の流れ」を観測しています。特にいわゆる「クレーター」と呼ばれる谷のポケット地帯の中にです。たしかに彼らが見るのは動く雲（複数）の影なのです。地球から見える側の月面には実際の雲（複数）を見るチャンスはありません。これは雲が濃密でないからです。ところが月のリム（縁）のすぐ向こう側の、温帶ともいえる部分の上空には、地球の上空の雲と非常によく似た濃密な雲が形成され、それが流動したり消滅したりしているのがこの装置でわかります。

地球から見える側の月面は地球の砂漠地帯にたとえればよいでしょう。

（注）アポロ計画よりもかなり以前にアダムスキーが「月面は固い岩盤である」という従来の天文学上の説とは異なる状況を述べていたことは注目にあたいます。しかも砂漠地帯説は後にアポロ飛行士たちに実証されたのだ、また月面上空の雲も飛行士たちが撮影している（月の中心部には美しい地帯があつて、

そこには草木や動物などが生きていますし、人間も快速に生活しているのです。

地球人さえもそこに住むことができるでしょう。人体というものは宇宙で最も順応性に富んだ一種の機械なのです。

月は全く生きた天体で、人間を含む生命を支えているのです。私たちは月のリムのすぐ向こう側の、温暖ながら少し冷たい地域に一大研究所を建設しています。

月は地球や私たちの惑星ほど多量の空気を持ちません。これらの天体よりもはるかに小さいからです。それでも大気はあるのです」

近距離にして月を観察する装置が調整されると、私は地球に最も近いこの天体に関する地球人の概念が完全に誤っていることを知つて驚いたのである。クレーターの多くは、実際には過去における月の内部のすさまじい隆起によつて形成された、けわしい山に囲まれている大峡谷なのだ。地球から見える側には、かつて多量の水が存在したと思われる明確な跡を見ることができた。

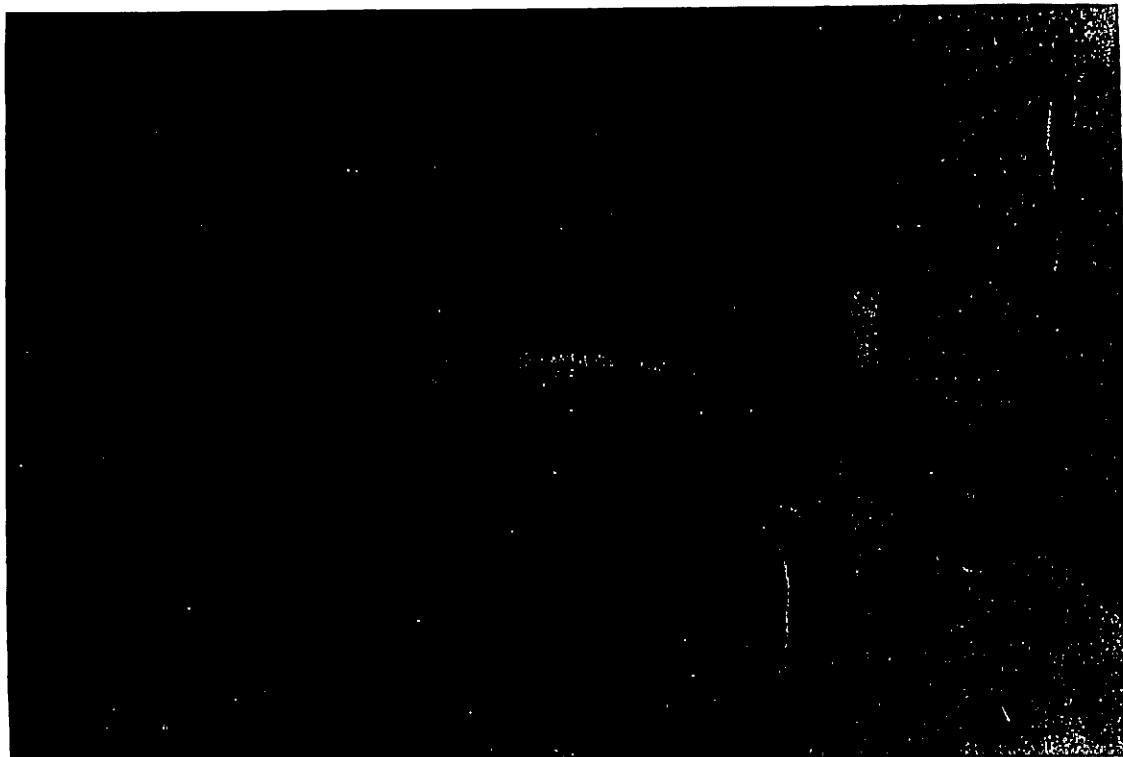
ズール（異星人）が言う。

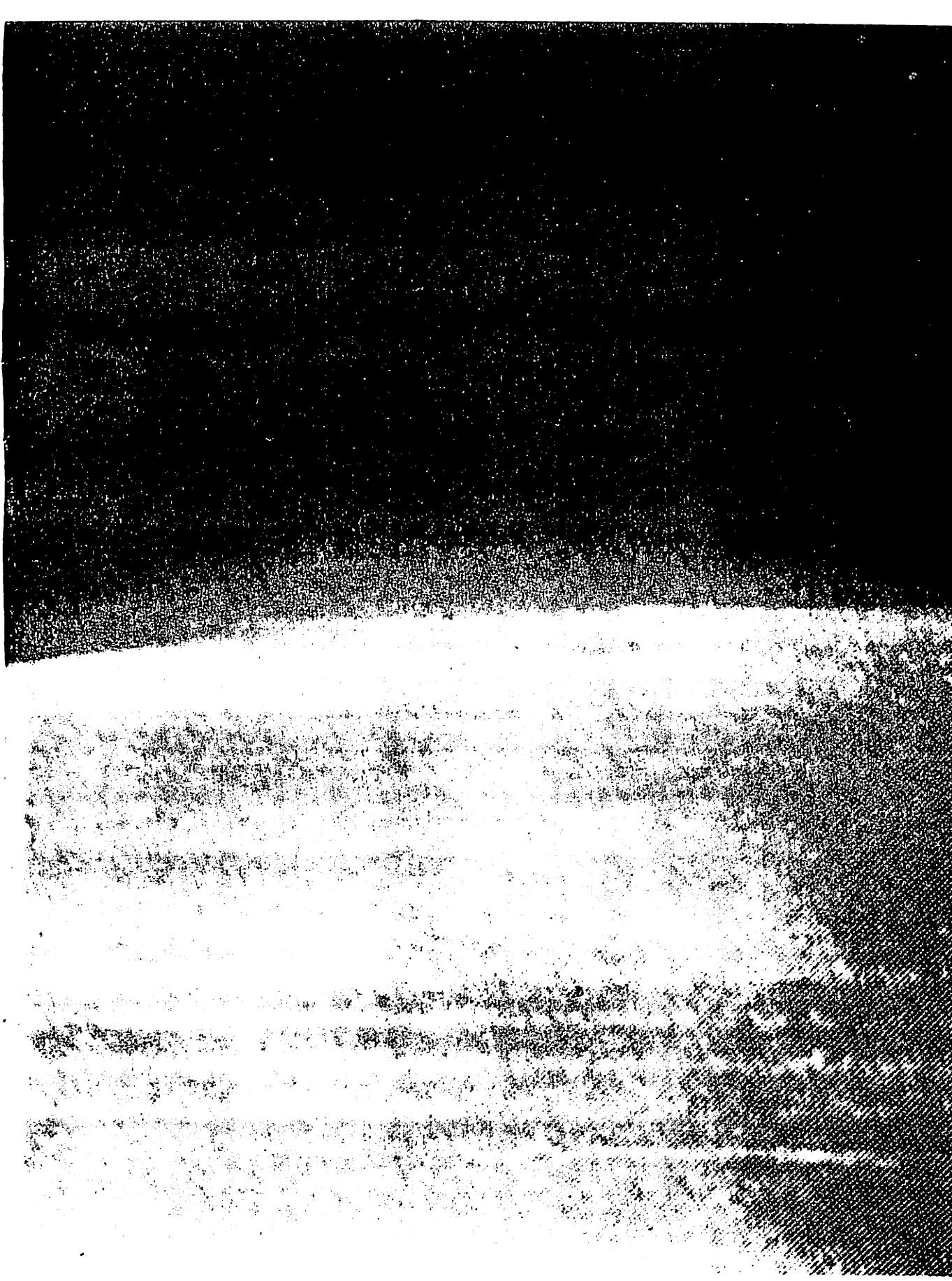
「月のこちら側の山々の中にはまだ多量の水が地中深く含まれていますが、向こう側にも沢山の水があります」

統いて彼はクレーター群で囲まれた山々の斜面に、大昔の水流のはつきりした跡があることを指摘した。

統いて眼前のスクリーンに映される拡大された月面を見ていると、地面や深い谷の中などを通つて深いスジ（複数）に気づいたが、これは過去の大水流で作られたものにほかならない。

▼アダムスキーが6インチ反射望遠鏡で撮影した月面付近を飛ぶUFO。







▲月の上空を飛ぶUFO。アポロ宇宙船より撮影。

(注)こうした水流の跡もアポロ飛行士によつて確認された)

この地域にはまだあちこちに非常に小さな植物帯があるのが見える。その地面の一部は美しい砂粉状だが、一方、粗い砂、または細かい砂利に似た大粒の石を敷いたように見える部分もある。じつと見つめていると、その見つめていた地面を一匹の小さな動物が走つて横切つた。毛皮の四足獸であることはわかつたが、

走るスピードが速すぎて、どんな動物かは見当がつかない。

—※—

アダムスキニーによると、月面にはすでに大昔から別な惑星の人々が建設した基地があり、月の裏側には都市があつて、人間が快適に生活しているという。ただしだけが薄いので、着陸してから宇宙服を脱ぐと、地面に降り立つには、二十四時間かかるといつてある。これも医学的には全くの不可能事ではない。いずれはこのようない装置が開発されるだろう。

なぜ政府は隠すのか

こうなるとアダムスキニーの偉大さよりもむしろ、一般大衆的好奇心の乏しさ、宇宙にたいする関心のなき、当局の声明や一部科学者の所説についての自信ぶりに首肯すべき言葉はない。

それはともかくとして、米ソ両国政府はなぜ大気圏外の真相を隠すのか。理由は明白だ。巨費をかけた「軍事目的」を有する宇宙開発の大実験の真相を正直

に洩らすわけがないのだ。しかも恐怖心のかたまりみたいな地球人に、「月やその他惑星に偉大な文明を築いた人間が住んでいる」と公表しようものなら世界的なパニックが発生して收拾のつかない状態になるだろう。大国の為政者はバカの集まりではないので、その点も計算込みなのだろう。とすれば現在の隕蔽策はむしろ賢明といえるかも知れない。

「死人の箱に十五人
ラム酒一本ヨーホーホー」

ロング・ジョン・シルバーの率いる海賊の一隊は、目指す宝物の隠し場所へ来たけれども、穴はすでにだれかに掘られて、中はもぬけのカラだった。失望した海賊たちの耳に不気味な歌声が響いてくる。

ステイーヴンソンの名作「宝島」では、間の抜けた連中の狼狽ぶりが見事に描かれているが、貴重な無機物の宝庫と思われた月へ最初に降り立つたアポロ十一号の飛行士たちが地球へ持ち帰つたのも、わずか二十二キログラムの石ころだけだった。そして数百億ドルの巨費をかけたアポロ計画は十七号でもつてばつたり打ち切られた。なぜか?

この宝島に、すでに何者かがやつて来て資源を占有していたことを米政府が知つたからではないだろうか。

二頁の写真は「月（写真集・朝倉書店刊）」より。その他は筆者が特殊ナルトから入手したもの。



静岡県磐田市在住の筆者は大正九年生（六十二歳）の日本GAP会員で、少年時代から旧軍隊を通じて種々の超常現象的体験を経てこられたが、戦後は更に不可思議な体験を持つことにより宇宙的な良き運命が展開してきたという驚異的な人生をすごしてこられた方である。

× × ×

九死に一生を得る

むかしの第二次大戦中、私は旧軍隊にいて、いろいろな不思議な体験があつたずいぶん助かってきました。まずその話からしましよう。

若い頃に旧制中学を卒業して東京のある旧制大学の専門部を受験しましたが、一度すべつて二度目に水産講習所（現・水産大学）の養殖科を受けて学科は合格したんですけど、体重不足ということで不合格になりました。

それから家の手伝いをやることにしました。親父が蘭鉢（金魚の一品種）が好きで、一反ばかりの土地に三畳ぐらいいの池を作つて蘭鉢を飼つていたんです。その手伝いです。

そうこうしているうちに昭和十七年四月に徴用がきて、名古屋の愛知時計電機へ入ることになり、この工場の事務所に勤めたのです。ここは飛行機のプロペラを作る所で、隣の工場が組立工場で、艦載機の組立をやっていました。

そのうち八月十日にそこを徴用解除になつて軍隊に召集されました。そして静

岡の歩兵連隊に入隊し、一ヵ月の訓練を受けてから北支（現在の中国北部）へ出発しました。そのときは生きて帰るつもりは全然なくて、夜中に出発したんです。が、東海道線の線路が自宅のすぐそばを通つていて、三間に四間の石倉があるのですが、それがチラリと見えて、ああこれが見おさめかと思いました。

そして朝鮮半島から満州（現在の中国東北）をまわつて山海関へ行つたんです。

が、山海関の駅へ着いた直後に——貨車で輸送されたんですが——私の乗つていた車輛のすぐ前の車輛が狙撃されてそれに乗つてた兵隊はみな死んだらしいのです。だから車輛が一つ違つていたら私がどうなつたかわかりません。これが運命のわかれざわです。

不思議な声が聞こえる

それからだんだん北支から西へ移動して内蒙古の高原地帯の摩和（まわ）という町へ行つたんです。そして更に烏蘭花（うらんか）といふ町へよつとした町に日本軍の兵営があつて、そこにしばらく駐屯していました。そこで一中隊ほどで警備していたんです。

私はどちらかといいますと他人と争うこととはきらいですから、軍隊にいた若い頃はいつもにこにこしていただけに、上官の上等兵から「おまえはいつもにこにしているが、軍人はもつと口引き締めてしつかりした態度をするべきだ」と怒られたものです。

すべてそんな調子で銃剣術もきらいだし、大体に「戦う」という精神がないも

のですから、毎日殴られました。でもそれほどこたえませんでした。夜、内務班で整列して殴られるときに（編者注）これは旧軍隊で「鬼の時間」または「地獄の時間」と呼ばれて兵隊の恐怖のひとときとされた）暗い場所ですと殴られたときに目から火花が散りますが、あれを見たて殴られながら喜んでいたような状態でした。

だから苦しみを楽しみに替える方法を心得ていたわけで、わりと楽でした。

大体、私の体は当時体重が四十七キロぐらいしかなく、体力がないものですから、何をやつてもアゴを出すんですね。（編者注）「アゴを出す」というのは、「へたばる」という意味の旧軍隊用語）行軍をやればアゴを出し、何をやつてもアゴを出すんですね。でも対弾射撃をやればもだめなんです。でも対弾射撃をやればすごくよい成績をあげました。それも自分の標的でなく、隣の標的にあるんで

そんな具合で軍隊生活ではずいぶん苦労しました。これは昭和十九年の一月の頃で、そのあと大本營より部隊に命令があつて南方の島へ行くことになりました。それで装備が全部支給されました。

ところが「明日出発」というときに中止になつて原隊へ復帰しましたが、その前に厚和へ出て雪の中で毎日訓練をやりました。それが体にこたえたとみえて、体を悪くして、ある日入院を命じられたのですが、その一週間ぐらい前に、夜、寝ていましたら、次のようないい不思議な音葉が耳の中で聞こえたのです。

「おまえは軍隊にいても役に立たぬから

帰してやる」

これは一種のささやきの声みたいなものでした。そしたら一週間ぐらいたつてから病院行きを命じられました。いつもアゴを出しているものですから、古い兵隊がもうだめだと思ったのでしょう。こんな話はあまりしたくないので、いまだでだれにも語りませんでした。

結局、助かつた

それから厚和の病院へ入ったのですが、その当時、華南作戦が始まりました。私のいた部隊は第53・56部隊です。私は第二中隊にいました。その作戦が始まつてから負傷者が沢山出たために病院をあける必要が起つたのです。したがつて重傷患者優先で、次々と内地に送還したわけです。私もその一人として北京の病院に転送せられました。その間にもずいぶんいろいろな話がありますが、それは省略しましよう。

北京の病院に入つて一週間ぐらいしたある日、軍医が病室へやつて来て、「いまからおまえたちを万寿山へ連れて行くから、行きたい者は申し出よ」と言つたのです。万寿山というのは有名な行楽地です。万寿山というのには有名な行楽地です。

そこで患者の兵隊たちは大喜びして、さほど体の動かない者までわざ先にといつせいに参加しました。残つた者はほとんどいないような有様です。

私はそのとき考えました。人によつてはざるいともかるかもしれないが、これは内地へ帰す者と、こちらへ残す者の選

り分けだな、と。それで行けないこともなかつたのですが、私はやめたのです。

そうしたら次の日に呼び出しがあって、軍医の前に引き出されて、「おまえは内地に帰りたいか」と聞かれるのですから、「早く治つて第一線に帰りたい」という意味のことと述べましたら、次の日に「おまえは奉天行きだ」と宣言されて、万寿山へ行かなかつた少數の兵隊だけはみな奉天へ還送されました。無理をして万寿山へ行つた連中は原隊へ帰されましたが。あとはどうなつたか知りません。

人間というものはずいぶん運命が異なるもので、私が鳥蘭花にいた頃、同じようく静岡から行つた兵隊で、字は知りませんがサツソウ山という所にいた補充兵の中隊ですが、古兵が作戦に出でたいた留守に八路軍（編者注：一九三七年から一九四五年までの日中戦争期における中国共産軍。戦争終時は兵力六十万、戦後は中国人民解放軍と改称した）に襲われて全滅しました。

そんな異合で私は奉天の病院に入つて、更に内地の小倉の病院に転送されて、そして静岡の原隊に復帰しました。ですから、他の兵隊で成績のよい人は上等兵になつてゐているときには成績がわるいものでしからいつまでも二等兵で、原隊に帰つたような有様でした。

それから今度は組成替えになつて南北へ行く要員として編成されたんですが、そのときは下痢をして残されました。結

局、三回ほど編成部隊に入れられたのにその都度、何やらかやらで理由がついて残されたので、外地へ行かずにつみました。軍としてもあいそがつきたのでしょ

う。ある日、「おまえは除隊だ」というわけで、十九年の八月三十日に静岡の連隊で営門の所を「歩調をとれ！」をやつて帰つてきました。

その日は空は晴れて、とてもいい日で、すごく気分がよかつたことを覚えていました。自宅へ帰つて畳の上に寝たら王様になつたような気がしました。

感謝の心を起こして命拾い

それ以来、私は家の手伝いをやつたりぶらぶらしたりしていましたが、この年十一月になつて自宅の金魚池に二畝ほど蓮根が作つてあって、その蓮根掘りをやりましたら、また体を痛めて、今度は本格的な病気になつたのです。そして昭和二十年の二月十二日まで寝てましたが、

その月の十日頃でしたか、すぐ近くに叔母さんが住んでいましたけれども、その叔母さんが「いや、その前に、私は二階に寝ていたのですが、ある日母が階下でこそそ人と話をしているのを聞いたんです。『敏夫ももうだめだな。もうあきらめるよりほかないな』

次日の日でしたか、隣に住んでいた人がつていましたので最初は見分けがつかなかったような有様でした。

そこからは丈夫になり、母が面会に来てくれましたが、あまりにも元気がよくなつてしまひましたので最初は見分けがつかない

て、「おまえは全然食べられないそうだから、これでも食べたらどうか」といつてソーメンを持って来てくれたんです。それをゆでて食べたらとてもおいしくてよく食べられたのですから、思わず起き上がりて叔母さんにむかって押みました。

肋膜炎だったのですが、自分で考えて、この病気を治すには血をふやさなければいけない、そのためホウレン草を食べること、そして消化をよくするために大根おろしを食べることと考えて、母親に頼んで作つてもらつたんです。そうしたら次第によくなつて、二月十三日に起きたんです。

そのとき思つたことは、煙が二畝ばかりあつて、そこに父が自家用の野菜を作つていましたから、ホウレン草も大根もありました。だから病氣が治つたらホウレン草も大根もお札にうんと作つてやるぞと思つていましたが、人間はだめです。治つてしまつたら忘れててしまうんです。

そして二月十三日に起きました。ところが、その日に起きたからよかつたのです。二月十五日には米軍機による焼夷弾の攻撃があつて、私の町内が焼けたのです。その当時まで私は十畳の部屋に寝ていたのですが、私の首にあたる位置に焼夷弾が落ちて床に突き抜けたのです。ですから感謝の心を起こさなかつたら私は死んでいたでしよう。

——「敏ちゃん、体が弱いのなら、これで、『おまえは全然食べられないそうだから、これでも食べたらどうか』といつて、ある新興宗教の本を一冊持つてきました。それを読んだあと、叔母さんがやつて来た

人を助けるために軍隊から帰された

その前にもつと幸運なことがありました

た。先にお話ししたように私は微用で愛知時計電機という会社にいたのですが、ここは艦載機を作っていましたから、ものすごい爆撃をくらったのです。それで私の親戚の人が爆撃の翌日に愛知時計電機へ行つてみたら、すごい惨状を呈して死体が木にぶらさがつたり、また一面に死体がころがつていたということで、私が勤務していた事務室に二十人ほどいたのですが、その全部が大怪我を受けるか死ぬかどちらかだったと話していました。しかし私は軍隊に入つていて、そこにいなかつたばかりに助かつたのです。したがつて私も久保田会長と同様に、なぜか危険をのがれる不思議な運命をもつ人間だと語れます。こうした例はまだ他にもいろいろあるのですが、長くなりますが省略しましよう。

先にお話ししましたように「おまえを軍隊から帰してやる」という不思議な声が耳に聞こえてから、本当に私は除隊して帰つて来たのですが、この除隊の理由についてはあとでわかつてきました。私の父が金魚の蘭鉢を飼っていたことは先に述べました。蘭鉢というのは体が丸く、背びれがなく、優美なので珍重されます。そして父は浜松の金友会といふ蘭鉢を飼う会の審査員をむかしやつていましたが、偶然のことから蘭鉢のキモが肺炎の妙薬であることがわかつたのです。当時はペニシリンのない頃で、肺炎になつた人はほとんど死ぬような時代でした。しかし私の所で飼つている蘭鉢をわけてあげて、それを飲んだ肺炎患者は死なないのです。毎日のように蘭鉢を求め

て人が来るので、父は少しも惜しまずにお手玉を貰っていました。私の叔父で農業をやつていた人がひどい肺炎になり、医師から見離された危篤状態のときには家族が蘭鉢を求めてきたのですから、父が特別上等な蘭鉢を一匹持つて行つて、腹を割いてキモを飲ませたら、四十度五分もあつた高熱が翌日は平熱に下がつて、それきり治つてしまい、医師がびっくりしました。しかし父が亡くなつてからは私が蘭鉢を飼つて、肺を愈すためにとらわれて見ていたので、一緒に家に住んでいたのは室内だけでした。でも円盤を見たのは私だけで、室内

やつていた人がひどい肺炎になり、医師から見離された危篤状態のときには家族が蘭鉢を求めてきたのですから、父が特別上等な蘭鉢を一匹持つて行つて、腹を割いてキモを飲ませたら、四十度五分もあつた高熱が翌日は平熱に下がつて、それきり治つてしまい、医師がびっくりしました。しかし父が亡くなつてからは私が蘭鉢を飼つて、肺を愈すためにとらわれて見ていたので、一緒に家に住んでいたのは室内だけでした。でも円盤を見たのは私だけで、室内

で見ていません。八月になつてからどういうわけか心がぱくぱくにいとまがないほどです。父が亡くなつてからは私が蘭鉢を飼つて、肺を愈すためにとらわれて見ていたので、一緒に家に住んでいたのは室内だけでした。でも円盤を見たのは私だけで、室内

で見ていません。八月になつてからどういうわけか心がぱくぱくにいとまがないほどです。父が亡くなつてからは私が蘭鉢を飼つて、肺を愈すためにとらわれて見ていたので、一緒に家に住んでいたのは室内だけでした。でも円盤を見たのは私だけで、室内

で見ていません。八月になつてからどういうわけか心がぱくぱくにいとまがないほどです。父が亡くなつてからは私が蘭鉢を飼つて、肺を愈すためにとらわれて見ていたので、一緒に家に住んでいたのは室内だけでした。でも円盤を見たのは私だけで、室内

輝く土星型円盤を目撃！

さて、いよいよ宇宙的な体験に移りましたが、偶然のことから蘭鉢のキモが肺炎の妙薬であることがわかつたのです。当時はペニシリンのない頃で、肺炎になつた人はほとんど死ぬような時代でした。しかし私の所で飼つている蘭鉢をわけてあげて、それを飲んだ肺炎患者は死なないのです。毎日のように蘭鉢を求め

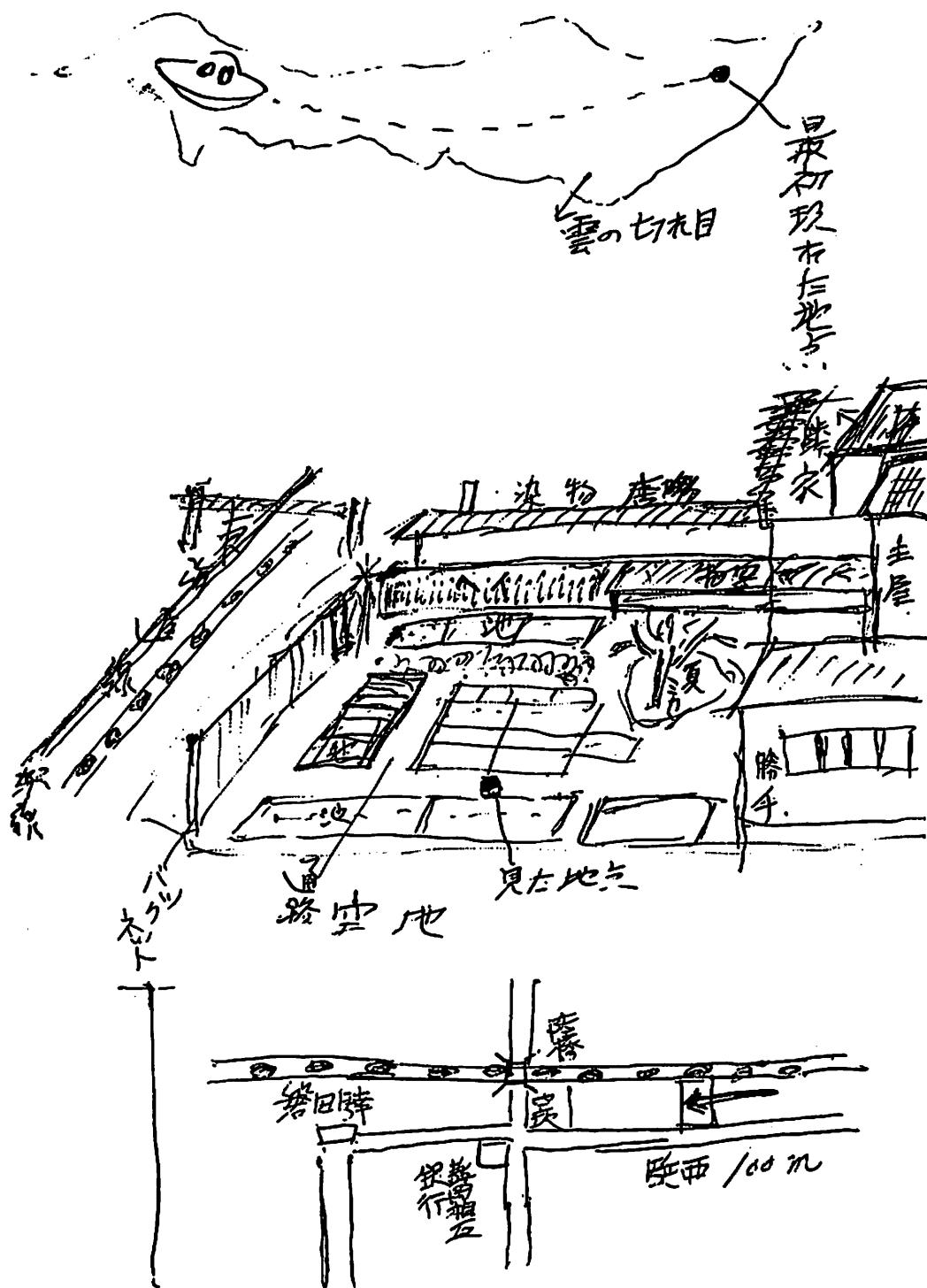
た。これが翌十七日と、二日おいた二十九日の日です。私は一人の息子がいますが、その當時二人とも家を出でましたから、私はあつけにとられて見ていたので、一緒に家に住んでいたのは室内だけでした。でも円盤を見たのは私だけで、室内

で見ていません。八月になつてからどういうわけか心がぱくぱくにいとまがないほどです。父が亡くなつてからは私が蘭鉢を飼つて、肺を愈すためにとらわれて見ていたので、一緒に家に住んでいたのは室内だけでした。でも円盤を見たのは私だけで、室内

で見ていません。八月になつてからどういうわけか心がぱくぱくにいとまがないほどです。父が亡くなつてからは私が蘭鉢を飼つて、肺を愈すためにとらわれて見ていたので、一緒に家に住んでいたのは室内だけでした。でも円盤を見たのは私だけで、室内

で見ていません。八月になつてからどういうわけか心がぱくぱくにいとまがないほどです。父が亡くなつてからは私が蘭鉢を飼つて、肺を愈すためにとらわれて見ていたので、一緒に家に住んでいたのは室内だけでした。でも円盤を見たのは私だけで、室内

円盤出現時の見取図(岩崎敏夫氏画)



魚の餌があるのですが、それが欲しいと言っています。

そこで私がそれを出して、どうぞとばかり渡したのですが、相手は財布などを持つておらず、どこから出したのかはわかりませんが十円玉を二つ出して、私に渡したあと、急いで出て行きました。

初めて店へ入って来るときの様子は、地面に両足がつかないような宙を飛ぶようなヒヨイヒヨイとした歩き方でした。その人の身長は私の胸のあたりまでしかなく、一メートル四十五センチほどでしょうか、小さい女性なのに大人という感じで、気品があり、髪は黒くて、うしろで二つに分けて長く垂らしていました。

目は白色に少し赤味がかつたような色で、西洋人のように瞳が緑色です。

その服装たるや明治時代に流行したワニピースのアッパッパに似たもので、白っぽくて、ヒダがついていました。靴下をはいていたかどうかは覚えていませんがサンダルをはいて、腰に細いベルトをしめていましたが、ポケット類は全然ありません。

顔付きは白人系統の頬ですが、ちょっと見た感じでは歌手の林寛子さんに似ていたと思います。

その女性は足早に出て行きました。終始無言のままでしたが、ずっとここにこっていました。

私はそのことはまもなく忘れてしまつたのですが、中二日おいて二十日になつた二時半頃、その女性がやってきました。今度は微笑を浮かべないで、まじめな顔をして入つて来て、ビニールの袋に入

った魚の骨の「ベレット」という百二十グラム入り百円のを欲しいというので、それを渡しました。

すると相手は私のそばから動こうしないのです。どうやら私を連れて行きたいような素振りです。相手は一分間ぐらいいジッとしていました。私は行きたくないで心中で拒否したところ、相手はその感じをフッと解いて出て行きましたが、なんだか憐れみの表情を浮かべていました。彼女が出口の外へ出たとたんにパッと消えたような気がしました。あるいは私の目の錯覚だったかもしれません。

この女性が奥にいたとき、家内も離れた位置からその姿を見ていた、「おかしな人だね」と言うのを私は聞いたのですが、あとで尋ねてみると、家内はそんな女性が来たことは全然知らないと言うのです。だからこれは相手の女性が家内の記憶を消したのではないかと思います。

結局、この日に不思議な女性が来たのは、私に円盤を見せるために連れて出ようとしたのかもしれません。この円盤は夜中に天竜川の河原に着陸したのではないかと思います。

異星で姉弟であった？

それ以来、私は彼女のことを思い浮かべながら忘じてはいる、いろいろな印象がやつて来るようになりました。あまり危機感をあおりたてるような話はしたくないので省略します。

それで、もう一度会つて話を聞きたいというテレパシーを送のですが、その

前に思い出したのは、最初に来た女性と二度目に来た女性とは表情が違うところから、双生児ではないかと思うのです。

最初の頃は念じていると二人の顔が浮かぶのです。それである夜念じていると、突然自分がどこかへ引き込まれて落ちて行くような気がしました。すると、あるそこに一本の高い木が立っているのです。その瞬間に「これは私の家の前に訪ねて来た惑星が浮かんてきて、その惑星の姿がだんだん大きくなつて、そこへ着いたと思ったら、山の中腹に一軒の家があつて、そこに一本の高い木が立っているのです。してお客様の立場になつて物を仕入れておいて適正な価格で売れば必ず売れるものだという自信を持つようになります。機関誌「宇宙哲学とUFO」はずいぶん良い参考になりました。

これからみると過去世において、その惑星で、私とその女性が姉弟として暮らしていたのではないかと思います。これについてお話しすればまだ沢山の不思議な現象があるのですが、あまり危険無くと思われるようなことは話したくないのです。

その惑星から地球へ転生してきた私は、更に現在まで地球上で四回転生しているようです。それについていろいろと過去世の記憶があります。

子供の頃から困った事が起きた場合にそれを解決しようとして頼うと、必ずそれが実現するのです。子供のときは一種

センチメンタルな子供で、ときどきなぜか悲しい気分におそわれたのですが、その不思議な女性に会つてから悲しい気分が全然なくなつたのです。だから不思議だなと思います。私が過去世でその女性と暮らしていた惑星の名はわかりませんが、この太陽系であることは間違いか

りません。

そしてこの世界でも私はその異星人の女性に守られているらしいのです。たとえば昨年は金魚界は不況でしたが、「心配は不要です。なんとかしますから」と君われていたので、売り上げは伸びました。これにはGAPの宇宙哲学も応用してお客様の立場になつて物を仕入れておいて適正な価格で売れば必ず売れるものだという自信を持つようになりました。

機関誌「宇宙哲学とUFO」は、非常に参考になりました。

先程述べました「危機感をあおるようなことは音いたくない」というのは、こういうことです。つまり人間が自然を破壊してゆくことを続けるならば、それは宇宙の意識を破壊するのと同じことです

巨大地震は発生しない

「心配は不要です。なんとかしますから」というのは例の異星人の女性から来た言葉です。私の場合は心配事を概念で相談するが、耳の所にボソボソと答が返ってくるのです。この頃はテレパシー現象があまりありませんが、二~三年前はよく「お会いしたい」という想念を発したのですが、そうすると「私たちほどでも忙しくて、会つて余裕はありません」という答が返つてきました。結局、よく言われているように彼ら異星人は地球のために働いているのでしょうか。

宇宙の意識を破壊するのと同じことです

から、そうなるといつは報復があることになります。そういう意味なのです。その異星人の女性がそういう意味のことを語っていました。テレバシーで……。この頃は精神が低迷したせいか、あまりテレバシーによる連絡がありませんが、以前はずいぶんありました。いまは精神の状態が低下したので同調しないのでしょう。

「自然の報復」というのは大地震や天変地異を意味するのですかという編者の質問にたいして)

大地震が起こるときはあらかじめ知らせると書きましたから、いまのところ知らせがないのを見れば、その心配はないようです。

東海大地震の可能性はまずないだろうと私はみています。震度四か五ぐらいのものはあるかもしませんが、大破壊に通じるような地震はないでしょう。これは私の考えですが、伊豆半島なども何万年もかかるて隆起したのですから、突然海中に没するような大異変はないと思います。

関東地方の海中沈没の噂にしても、長い時代を通じて徐々に起ころるものもせんが、急激に発生するとは考えられません。なにかそのような感触でした。

恐るべき体内汚染

ただ心配なのは人間の体内汚染です。これは確実にやつてきます。これはすごいです。明治生まれの人は体が丈夫に出来ていますが、二十歳代や三十歳代の人

の寿命がないことがあります。そういう意味なのです。その女性はその意味のことと書いていました。テレバシーで……。この頃は精神が低迷したせいか、あまりテレバシーによる連絡がありませんが、以前はずいぶんありました。いまは精神の状態が低下したので同調しないのでしょう。

「自然の報復」というのは大地震や天

変地異を意味するのですかという編者の質問にたいして)

大地震が起こるときはあらかじめ知らせると書きましたから、いまのところ

知らせがないのを見れば、その心配は

ないようです。

東海大地震の可能性はまずないだろ

うと私はみています。震度四か五ぐらいの

ものはあるかもしませんが、大破壊に

通じるような地震はないでしょう。

これは私の考えですが、伊豆半島など

も何万年もかかるて隆起したのですか、

突然海中に没するような大異変はない

と思います。

関東地方の海中沈没の噂にしても、長い時代を通じて徐々に起ころるものもせんが、急激に発生するとは考えられません。なにかそのような感触でした。

思ひます。

人間は楽しく生きられる

人間は楽しく生きられる

人間はあらゆる可能性を持って生まれているのですから、決して失望することはありません。この世で大切な

世でやればよいのです。この世でも、本

当にやろうと思えば、どんな事でもやれ

ると思います。

ですから夜空を眺めていて、何かの星にひかれる場合、その人は過去世でその星に住んでいたのかもしれません。私が住んでいたと思われる惑星で、そ

たちはあと二三十年ぐらいしか寿命がないようです。体内がかなりひどいからいるらしいのです。私はアダムスキーの書物を読んでから本に触ることをずっと勉強しました。それでいまの若い人は有効な物質を相当に吸収していることがわかったのです。

私の先祖が内科医だったせいか、私は体を丈夫にする方法を研究するのが趣味でして、いろいろ調べました。

(編者注) 岩崎氏は体内汚染についても異星人から情報を送られているようだが、慎重に言葉を選びながら語るところをみると、詳細な公開を避けているらしい)

その婦人のことですが、全く懸念がない服を着た人で、その格好は「宇宙船艦ヤマト」の劇画に出てくるような姿でした。

でも、それを本当の宇宙人ではないかと思いつめたのはずっと後になつてからです。そして耳許で声が聞かれるようなテレバシー現象が始まったのです。

私は水彩画を描くのが好きなものですから、その婦人の姿を描こうとしたのですが、どうしてもうまく描けませんでした。その高貴さがあらわせないので、まだずいぶん不思議な話があるのです。差しさわりがあるためにくわしく話をせません。

私はきわめて楽天的な生き方をしています。これは異星人に守られているといふことよりは別に、私自身の楽しく生きる方法によるものです。心を切り替える

れば人生は結構楽しいですね。

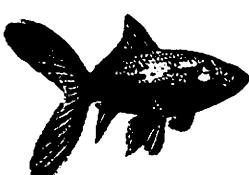
なお岩崎氏のUFO目撃体験の部分のみは簡単な記事を本誌77号の「目撃ルポ」に掲載したが、本号では更にくわしい内容を公開できた。氏の「好意にあらためて感謝する次第である。また仲介の労をとられた静岡支部代表・野口敏治氏にお礼を申し述べたい。

編者付記

筆者岩崎敏夫氏はきわめて謙虚な穏厚な方で、みかけ上は普通の老人と変わぬ変哲のない樂しそうな雰囲気を持つ人であり、超常現象的能力を持つ人物によく見られるような異常さや常識はずれな態度などはみじんもない・さくな方である。

しかし話しうりは慎重そのもので、かなりのショッキンな秘話があるらしいのに立場の關係もあって詳細は省略された。当初は本誌への掲載を拒絶されたのだが、編者のたつての頼みにより応じられたのである。これは発表することによって多数の読者からの手紙や電話等による問い合わせで忙殺されることや、いやがらせの電話などを気にしておられたためであるから、氏にたいする照会は極力遠慮されるようお願いしたい。世の中には不思議なことがあるものだという感が強くなるばかりである。

なお岩崎氏のUFO目撲体験の部分のみは簡単な記事を本誌77号の「目撃ルポ」に掲載したが、本号では更にくわしい内容を公開できた。氏の「好意にあらためて感謝する次第である。また仲介の労をとられた静岡支部代表・野口敏治氏にお礼を申し述べたい。



〈連載第二回〉 驚異的な超能力と高次な精神の持主による不思議な実話は続く。

美しき惑星の思い出

中川 真理子



これは最近のことですが、やはり透視

の体験です。自分の部屋にて普通の状態で目をつぶっていたんです。すると丸窓みたいなものが四つ見え、その中に人の顔が見えました。そしてそれが次第に遠ざかって消えてゆきました。

この頃は目をつぶると何かが見えるんです。砂浜みたいな所を一生懸命に走っている男の姿を見たこともあります。これらは近く最近のことですが、もしかしたら過去世の自分の姿かもしれません。昔の人という感じでした。

何かの光景が見えるときはそれが静止した場面でなしに流れで動いて見えるんです。テレビカメラを移動させながら撮影すると画面が流れで見えますね。あれと同じです。人が現れてもそれが動いているんです。なぜかわかりませんが

私は中学の頃からバッハのオルガン曲

がすごく好きで、いまでも毎日のように聴いています。オルガンの演奏者の手の動きが好きなんです。そのせいか、この頃透視で見えるのは、なめらかな手の動きが多いんです。あるいはスイッチを押している手とか……とにかく手首から

先がよく見えますが、私は昔から体のなかでは手が好きで、両手を見ると、すぐく“いとしい”という感じがします。

私だけに現れるUFO

今年になつてから私という人間がすごく変わってきたと前にも言いましたが、今年（五十七年）の六、七、八月頃です

二人でいたときでした。一緒に話をしな

がら空を見ていたんです。夜でした。そしたらちょうど妹に電話がかかって席をはずしたんです。

そのとたん、真上の空にものすごく光

体が二、三度点滅したんです。「わ

あ、すごい！」と思って見ていました

が、アパート住まいですから、前の窓

な気がするんです。

そして円盤と思われる物体を何度も見

ました。不思議なことに妹と一緒にいる見えないんです。そして妹に電話がか

かつて席をはずしたときに私だけがUFO

を見たことが何回かありました。すご

く不思議なんです。私だけにしか見せて

くれないんです。これは前にお話ししま

ことですが、もっとくわしくお話ししま

しょう。

特にはつきりと見たのは、やはり妹と

二人でいたときでした。一緒に話をしな

がら空を見ていたんです。夜でした。そ

したらちょうど妹に電話がかかって席を

はずしたんです。

そのとたん、真上の空にものすごく光

体が二、三度点滅したんです。「わ

あ、すごい！」と思って見ていました

が、アパート住まいですから、前の窓

かから見ていますと、光体が裏の方へ移動

すれば部屋の中を横切つて裏側の戸をあ

けて見なければなりません。それで、「大

変だ！」と大声で騒ぎながら裏の方へ走

つて行つたんです。

そしたら光体はやはりその方向へ移動

してきているんです。そこで家の人たち

みんなを呼んで「早く見な、早く見な

と音つたんですが、「なんだ、それは飛

行機か星だろう」と音つて円盤だという

ことをだれも信じてくれないんです。そ

の信じてくれない人たちがベランダまで

来たとたんに、光体は消滅してしまいま

した。

私はとても残念でしたが、あれは絶対

に円盤だと確信していましたから、みん

ながいなくなつても私だけ一人で空を見

上げながら、必ずもう一度出現するよう

な気がするので待つていたんです。

そしたら、やはりボカツと光体が現れたので、とても嬉しくなって双眼鏡でずっと見ていました。光体はゆっくりと遠くへ下降して行きました。私は最後まで見ていました。あのときはすごく嬉しかったです。（編者注＝妹さんは天体観測を趣味とするが、UFOをこわがる）

奇妙な予知

私は職場までバスで通勤していますので、仕事が終わってからバス停に立っています。自宅へ帰る前に夕食のメニューを予知することがよくあります。どんな料理が待っているとか――。とにかくやさしいみたいで恐縮ですけど――。

つまらないことかもしれません、私は自宅へ帰る前に夕食のメニューを予知することがよくあります。どんな料理が待っているとか――。とにかくやさしいみたいで恐縮ですけど――。

ユダをいとしく思う

ところでイエスを裏切ったといわれるイスカリオテのユダのことがひどく気になります。

（編者注）一説によるとユダはイエスを助けようとして司祭に金を渡し、これでイエスを救つてくれと頼んだが、司祭は実行しないで逃げたために、ユダが裏切ったことにされたという。またイエスの十二弟子というのは太陽系の十二個の惑星をあらわし、裏切者ユダは太陽系連合を裏切っている惑星を象徴するという説もある。この話を編者から聞いた中川さんは語り続ける）

つまらないことなんですが、あるとちよつとしたことなんですが、あると私は休日に服のヒモを結んでいたんですが、妹の友達が家へ遊びに来るということを夢で見ました。そしたらやはり八月四日が開店日でした。

去年の夏（五十六年の夏）のことです

が、妹の友達が家へ遊びに来るということを前に妹の口からはつきり聞いたたも

のですから、その日、仕事から帰つて妹

「あんた、昨日私にそう言ったじゃないの」と音うと、妹は「絶対に言つた覚えはない」と主張します。その友達の来訪というのは、その日妹が友達と一緒に学校から帰りながら突然きめたことだから前日の日に言うはずはないというわけです。でも前日に妹が「明日は友達が家に来るよ」と確かに話したんです。だから私もわかつたんです。これは本当に不思議です。

編者宅付近と室内を透視

また透視の話になりますが、先生の家

はマンションの八階でしたね。窓から見える景色はどんな景色ですか？あまりきれいでない民家が密集している風景だとおっしゃるんですか？ そうですね、実は先生の家の付近を透視してみようと思つて、ある日、目を閉じたら、あまり大きくなない家がごちやごちやと密集している風景が見えたんです。そして、その

とき、まるで自分が車の助手席に乗つているかのように、景色が左右に分かれながら後方に流れゆく光景がテレビの画面を見るように見えるんです。

あとから電話で聞いてみたら、佐藤さんはちょうどその時刻に温泉からの帰りで、車に乗つていたということでした。あの方はよく温泉に行く人なんです。

あるときは山が見えました。左手にたんぽが見えます。この景色も流れています。それであとから電話で聞いてみた

した。そのときは山が見えました。左手中の風景だということでした。

私の透視というのはアダムスキーモ

盤が見えることが圧倒的に多いんです。

夜間暗い室内なら目を開けていて見えるのですが、昼間の明るい所なら目をつぶ

りませんが、なぜかユダが“いとしい”という感じが強くなつて、わけもなく涙が流れるんです。哀れというか何というか、休日に服の整理をしながらヒモをリボン結びしているときにそのような強い印象が起つたんです。なぜユダの印象がわいたのでしょうか。

え？ ユダはイエスのグループの会計係だったのですか？ そうすると財布のヒモと関連があつたんじやないかと考えたりして――（彼女はあでやかに笑う）

それ以来、ユダのことがたびたび気になつて、本当に裏切つたんだろうかと、弁護したいような気持になつっていました。

佐藤春雄氏の居所を透視する

十月頃ですが、日本GAP秋田支部代

表の佐藤さんと電話でときどき話し合つたことがあります。それでちらから電話をかけたら留守だったことが一、三あ

りました。そこで今頃佐藤さんはどこにいるかしらと思って、何か見えないかな

と思い、目を閉じたんです。すると、そのとき、まるで自分が車の助手席に乗つているかのように、景色が左右に分かれながら後方に流れゆく光景がテレビの

画面を見るように見えるんです。

あとから電話で聞いてみたら、佐藤さんはちょうどその時刻に温泉からの帰りで、車に乗つていたということでした。

あの方はよく温泉に行く人なんです。

あるときは山が見えました。左手にたんぽが見えます。この景色も流れています。

それであとから電話で聞いてみた

した。そのときは山が見えました。

左手中の風景だということでした。

私の透視というのはアダムスキーモ

盤が見えることが圧倒的に多いんです。

夜間暗い室内なら目を開けていて見える

のですが、昼間の明るい所なら目をつぶ

と、こんなふうになります（彼女は大ざっぱに描いたエンビツ画を見せる。椅子は大きなソファみたいな肘掛け椅子になつており、その後方に本棚がある。四帖半の事務室の光景を机の前方から透視したかたちに描いてあるが、大体的に中し

ている。椅子は自宅付近のある会社の社長用の扱い下げ品）

らないと見えません。

異星人(?)の顔を描く



今年の七月十八日のことです。私はときどき趣味でパンを焼くんです。それでその日もパンを焼いたんですが、酵母を発酵させますと、発酵しないで乾いた部分が白い形になつて残ることがあります。そのときこんなふうに残つたんです(彼女は紙に描いたスケッチを見せる)。この形は地図の上ではすごく四国に似ています。これは面白いと思って、すぐその場でスケッチしようと思つて、紙とエンピツを取りに行つてもどつて来たら、四国

の形をした部分の高知と愛媛のあいだのあたりがパックリと割れていたんです。だからいつか地震か何かが起るんじやないかと心配でした。

十月の二十九日には朝から何か描きたくて仕方がないという感じがしていまして。そして夜になつて突然こんな絵を描いたんです。しかも暗い部屋だったのですから、隣室から漏れてくるかすかな光を頼りにして、シンの太いエンピツで描いたんですが、あの暗い場所で、しかもメガネなしにどうしてこんな絵が描けたのか不思議でしようがないんです。お見せするのは恥ずかしいですけど――写真。

私の場合は透視といつても他人の過去がりの中で、こんな絵が描けたというのは本当に不思議です。世が見えたたり未来の運勢を予知したりするわけではありませんから、この記事が掲載されて私宛に問い合わせなどが殺到しても、どうしようもありません。

(ここでイエスの話になって、「二千年経過したのに現代の地球人の精神レベルは二千年昔と大差はない」という内容になる)

こんなことを考えるとたまらなくなります。小学校の頃から「どうして世の中はこんなにひどい状態なのだろう」と、友達と涙を流しながら話し合つたこともあります。

人間で本当に不思議ですね。こんなふうに考える人間もいれば、何も考えない人もいるのですから――。

不思議な感動的な夢

また夢の話になりますが、これは十月二十五日に見た夢です。その夢の中で私は男でした。まわりには十二~三人の男の人があり、だれも長いだらだらした服を着ていました。

それで、ある偉大な指導者が来るといふので、みんなで待つていたんです。やがて、その方が到着され、一同にむか

金星オーランの顔みたいですか? そういえばそのようにも見えますね。この絵は自分でも見ていてすごく好きなんです。むかしから絵を描くことは好きで、

漫画などよく描いていました。しかし暗がりの中で、こんな絵が描けたというの

は本当に不思議です。世が見えたたり未来の運勢を予知したりするわけではありませんから、この記事が

掲載されて私宛に問い合わせなどが殺到しても、どうしようもありません。

(ここでイエスの話になって、「二千年

経過したのに現代の地球人の精神レベルは二千年昔と大差はない」という内容にな

る)

そしたらその偉大な方が「この場所には居られなくなつたから、場所を別な所に移します」とおっしゃつたんです。そのときなぜか時計を見たら午後の三時でした。これはよく覚えています。それでみんなも一緒にぞろぞろと移動し始めました。

気がついたら、いつのまにか一同は病院の中にいるんです。病人が沢山いまし

たが、一人のお婆さんが――やはり病人

なのですが――私を引っぱつて、「あの偉大な方をここへ連れて来てくれ」と

つて私に頼みました。そのお婆さんは、

「あの方の姿さえ見れば私の病気は治る

んですから」と言つてました。それで私は

その偉大な方を、ちょっとすみませんといつ感じで呼びに行つたんです。

そのときまでにわかつていたんですが、

実はその偉大な方というのは久保田先生

だつたのです。そこでその方がお婆さん

の所へ来たら、お婆さんの病気がパツと

治つてしまつたんです。そしたらその偉

大な方が「あなたの信じる心が自分を治

しましたよ」と、あたたかくお婆さん

におっしゃいました。

このあたりからその方の顔が、久保田先生の顔から見たことのない男の顔に変わつてました。でもはじめは確かに先

生の顔でした。

そのお婆さんを治してから、その方と私と二人で病院の中をぐるぐる回つて、いろいろな病人を次々と治してゆきました。

そういう夢でしたが、目が覚めてからすごく感動して、「わあ、すごい夢を見たなあ!」と思つたんです。まるでイエスの奇跡と同じような光景だったのですから、たいへん感動しましたし、内容もよく覚えています。ずいぶん不思議な夢でした。

次に最近見た夢ですが、これは私自身が森のような場所で人をいっぱい集めてみんなにむかって悟っているんです。しゃべっている科白もまだはつきり覚えていません。それはアダムスキーリーの「生命の科学」をそのままコピーしたような科白なのです。

「心と意識を一体化させなければ眞の記憶は残りません。そうしないと自己の正体を見失ってしまいます。いまのあなたの生き方が、そのままあなたの来世をつくり出します」

こんなことを皆さんに言つているんですね。これは「生命の科学」を毎日のように読んでいますから、それが言葉となつて出たのだろうと思います。これもすぐ心に残っています。

日本GAPに入会してよかつた

いろいろと不思議な事をむしから体験しましたが、話す相手がいませんでしたし、忘れてしまつたことも沢山あります。私が「不思議だ、不思議だ」と言つても、まわりの人が全然聴いてくれませんし、私もそんな話をするのがバカみたいになつて、話さなかつたんです。

私がもし日本GAPに入会しなかつた

ら、私の体験はこのまま埋もれてしまつたかもしれません。ですからGAPにめぐりあえたことにすごく感謝しています。

私以外にまだこんな不思議な体験をした人が沢山いるのではないかと思いますが、それが何を意味するかに気づかずにはいると思うんです。

(編者注)以上までは前号掲載の、昨年十一月十七日、秋田市における編者との対談の続きであるが、以下はそれ以後の電話・手紙等による報告をまとめたもの)

母船内を透視?

十二月十九日の午後六時頃、目をつぶつて休んでいましたらある光景が見えました。明るい近代的な部屋か廊下みたいな所で、壁面に複雑なスイッチ類などの機械装置が並んでいます。奥行きのある細長いような場所でした。印象としては「母船内の壁面の一部」です。高貴な空氣で、張りつめたようなムードがありました。

うんと良く言わせてもららうなら、もしかしたら過去世のある日、私はその光景の中において、その壁を自分の目で見たのかかもしれません。そしてその記憶がよみがえったのかかもしれません。

しかし、あれこれと思いをめぐらせ過

ぎますと、見えたものに対して、どうし

ようもなく狂おしい感情(機かしさ、む

なしさ、その他)がわき起り、心がア

ンバランスになりかねませんので、あまり深く考えぬようにしています。客観視するという意味で「スクリーンの管理着者」

になるべきだと思います。

どうすれば透視やテレパシーが起こるか

私の透視現象はどうすれば起こるのかという問題については、そうですね、それは「関心」の問題です。アダムスキーリーも著書「テレパシー」の中で言つていますが、ただ関心があればいいんです。

見て見たいと考えていますと見えません。ですからそのように騒ぎたてる心をちょっと横の方に置いてやって、そして心を静めます。これは私の場合なのです。

が、そうしますと、想念が(心が)ストップしたかのような感じが起つてきます

。これは全く中立の状態です。まわりのすべてが感じられなくなり、目の前に

「スクリーン」だけがそこに「ある」んです。

近くに人がいて何か話しているとき、その声は聞こえますし、その声に答える

こともできますが、私は目前の光景の中にいるんです。まるで二人の自分がいる

ように感じます。「見たい」という気持

りました。

かしたら過去世のある日、私はその光景

の中において、その壁を自分の目で見たのかかもしれません。そしてその記憶がよみ

がえつたのかかもしれません。

とにかく「知ろう、知ろう、見よう、見よう」では心が騒がしくてダメです。

何も考へないでいるのが一番いいんです。これはとても簡単でむずかしいことです。

ですから、何もつけ加える必要はないん

です。それは「番き」です。

言葉でうまく説明できませんが、私の場合は、相手の考えがあたかも自分の考えであるかのように、心の中に飛び込んでいます。たとえば相手が恥じいらっしゃるとき、そのような感情を本人は隠しても、私の胸の中でキューんと恥ずかしいような感じが起こり、それが「自分自身の感じ」のように思われますが、しかし相手から発せられたものであることがわかるんです。不思議ですが、なんとも言ひようがありません。

ここで思い浮かぶのは、アダムスキーリー著書「テレパシー」の中でも言つていますが、たとえば相手が恥じいらっしゃるとき、そのような感情を本人は隠しても、私の胸の中でキューんと恥ずかしいような感じが起こり、それが「自分自身の感じ」のように思われますが、しかし相手から発せられたものであることがわかるんです。不思議ですが、なんとも言ひようがありません。

ここでも思ひ浮かぶのは、アダムスキーリー著書「テレパシー」の中でも言つていますが、たとえば相手が恥じいらっしゃるとき、そのような感情を本人は隠しても、私の胸の中でキューんと恥ずかしいような感じが起こり、それが「自分自身の感じ」のように思われますが、しかし相手から発せられたものであることがわかるんです。不思議ですが、なんとも言ひようがありません。

「彼らは(進化した惑星の人々は)自分によつて観察される個体が、あたかも自分であるかのように、その個体について意識的になるのです」

とにかく「知ろう、知ろう、見よう、見よう」では心が騒がしくてダメです。何を考へないでいるのが一番いいんです。これはとても簡単でむずかしいことです。

「彼らは(進化した惑星の人々は)自分によつて観察される個体が、あたかも自分であるかのように、その個体について意識的になるのです」

とにかく「知ろう、知ろう、見よう、見よう」では心が騒がしくてダメです。何を考へないでいるのが一番いいんです。これはとても簡単でむずかしいことです。

らす、一人で悩みました。これは地球上の空間に満ちている悲観的想念を感受していたのだと思います。

不気味な光景を見る

十二月二十一日の午前十一時頃、少々不気味な光景が見えました。二棟のビルがあつて、右側のビルはまともに立っていますが、左側のビルは左方へ横倒しになつており、その手前は土砂の山になつていました。ただ目をつぶつていましたら心が停まつた感じになつて見えたんです。これは冬の寒い季節の光景でした。未来の何かの変動を暗示するのではないかということですが、さあそれはどうでしょうか。でも不気味な光景の透視はまだ他にもあるんです。

心を観察してリラックスする

この頃私は自分の心の動きを観察するというおもしろい(?)レッスンを得ました。感情を極端に行使せぬというレッスンです。わき出るあらゆる感情は決して押さえつけたりするべきではなく、自然のままに放つておくるのです。そうすれば自然によき方向へと導かれてゆくのです。

心の本性にそぐわぬ行為は自分自身を生きることにはなりません。反対に心の本性にそつた行為は気楽でしたいものですので、心に緊張が起ります。この状態にしていますと、「気づいたら良い方向にむかつて歩きだしていた」と

いう結果になります。といいましても、これは全く私の場合なのです。

とにかく、いろんな場合に昔えると思

いますが、感情を押さえつけではならぬと思います。良き方向への道は、自己の意識(自分に宿る宇宙の意識)がかなりますが、感情を押さえつけではあります。感情を抑えないと信じていますので、何も気をもむことはしません。あります。良き方向への道は、自己の意識(自分に宿る宇宙の意識)がかなりますが、感情を押さえつけではあります。感情を抑えないと信じていますので、何も気をもむことはしません。

万物を心から愛する

昨日(一月十九日)一月の東京例会での先生の「宇宙哲学」解説講義の録音テープを送つて頂きました。聴かせていただきました。私は「宇宙哲学」はまだほんの少ししか読んでおりません。なにか表現がむつかしそうで……。でも素晴らしい内容であることはわかります。これから先生のテープに耳を傾けつつ学んでゆこうと思います。

テープの裏面の「近況報告」の中で先生が私のことをおつしやつておられるのを聞いて、私は部屋でひとりで赤面しながら笑ってしまいました。先生はほめ過ぎなんですね、すごく……。私は恥ずかしいです。といつても何もやましいことはありません。どうとも言いたくないのですが、それが何よりも切れませんが――。

生きればいいのですものね。多くの人はあれこれ考えすぎて結局何もつかめないのでないでしょうか。といつて私がそうではないとも言ひ切れませんが――。空が美しいから私は嬉しい。雲は決して止まらないから大好き。空気が「ある」から私は嬉しい。土が、砂粒が生きているからとても可愛い。立っている木々は私の同胞、私の分身。空を飛ぶ鳥は私の一部。私を迎えてくれる家は暖かくて優しい。生命あるもののすべてが愛しい。何もかもが愛しくて仕方がありません。私の命の方々が期待しすぎて、あとで「なあーんだ!」ということになりました。万物はたしかに美と高揚の聖域へむかつて進んでいます。このような喜び

私はただありのままを話しただけですし、私の体験の話が何かの役に立つならば、私は喜んでそれを差し出すだけです。

私は何も求めませんし、期待もしません。私は自分を「神様の道具」にしたいのです。この願いは日ましに強くなりま

す。もちろん一般的な意味での自分の楽しみはあります。でも私が嬉しいのは他人が喜ぶことです。他人が喜ぶことに役立ち得る道具になりたい。それが私の生きる目的です。でもそれは私の力量の及ぶ限りのことです。決して力むつもりはありませんので全く気楽です。

一瞬一瞬は永遠を含んでいます。いえ、この一瞬こそ永遠です。人間の一生涯など小さなものですね。この永遠の時の中で、あれこれ躍つてみても何がどうなるのでしょうか。永遠のただ中にいるのだと思うとき、とても楽しくなります。全く気楽になります。自分のありのままに生きればいいのですものね。多くの人はあれこれ考えすぎて結局何もつかめないのでないでしょうか。といつて私がそうではないとも言ひ切れませんが――。

春のような風に吹かれて揺れている多くの木々があり、それらは生命の喜びで震えていて、愛らしかった。私は彼らと一緒にテバシーで会話をした。楽しいフレーリングに満ちつた建物の内部を歩いて行つた。

それちがう人々の心の中が手に取るようになり、調和の感じがあり、ゆつたりとした、くつろいだフィーリングがそこら中の大気の中にしみ渡つていた。私はある机の前で立ち止まつた。机にむかつて一人の男がすわっていた。白人タイプのハンサムな男だった。

は心のあり方次第でどのようにもなるんですね。他人がこれを全く感知せずに生きていらるのは信じがたいことです。生命的の美しさを見ずに生きることがありました前世の中が現にここにあるということも信じられませんね。

そのうちの一人はベンで何か書いていた。その男を見たとたん、「あつ、アダムスキーダ！」とわかつて電流が走ったようにドキッとした。懐かしくて涙が溢れ出した。

「アダムスキーハ金星で生まれかわっていたのか！」

彼はとても明るく楽しそうにしていた。ややドイツ人っぽい顔立ちだった。

そのままいたら、そばを一人の男が通り過ぎた。この男は強い意志、勇気といふ分野の発達が不十分だった。しかし非難の念のかけらもない。

このとき私は机のところにいた二人の男に目撃した。「私たちに力があるとしたら、あのようない人のために使うべきではありませんか」という男が答えて言つた。

「私たちが居るということだけで、すでに役立っているのです」これは良い想念を大気中に放射していることを言つたのだろう。

とにかくそこではすべてがテレパシーで会話をかわすので、誤解というものは全くなく、皆、自分自身であるという感じが強くあつた。

真の自由を得るには

この頃、自分の精神がすごく高揚してきて、それがずっと続いているんです。まわりのことが全然気になりません。これが真的自由だという感じです。物事にこだわらないから心が自由なんです。

人はみな自由になりたいと言つけど、一方で物事にとらわれていますね。冒葉で自由と言つだけでは本当ではないと思います。心の自由が大切なことです。

勤め仕事をしていても東縛感は全然あ

りません。私は勤務先のあらゆる仕事を

奉仕と思って喜んでやっていますから、

何をやつても楽しくしてやるがないんで

す。ときどき瞑想みたいなことをやりま

すけど、なんといつたらよいのかなあ、

すごく高揚して体が浮き上がるような感

じです。

東京月例会で講演をやらないかというお話ですが、私はとてもとても――。

大勢の方々の前でお話することは恥ずかしく、おこがましくて、とてもできそ

うにはありません。そういうことは全く

だめなんです。

私の記事を読んでいたらいで、それが

ただけ嬉しいんです。でも私にとっては

あたり前のことをありのままにお話し

ただけですから、そんなに価値があると

は思いませんけど――。

日本GAPは重要な活動を運行するた

めにいま結集しようとしているように思

われます。先生を中心として素晴らしい

活動が展開するでしょう。

会員の皆様方、お幸せにおすごし下さい。

(完)

編者付記

前号から続いた不思議な女性の不思議な体験はまだあるのだが、ここまで一応打ち切ることにしよう。プライベートな

立場にかかるために省略した部分もある。

精神的にもしばぬけて高层次な女性は、どうみても偉大な発達をとげた別なりません。

勤め仕事をしていても東縛感は全然あ

りません。私は勤務先のあらゆる仕事を

奉仕と思って喜んでやっていますから、

何をやつても楽しくしてやるがないんで

す。ときどき瞑想みたいなことをやりま

すけど、なんといつたらよいのかなあ、

すごく高揚して体が浮き上がるような感

じです。

東京月例会で講演をやらないかといふ

お話ですが、私はとてもとても――。

大勢の方々の前でお話することは恥ず

かしく、おこがましくて、とてもできそ

うにはありません。そういうことは全く

だめなんです。

私の記事を読んでいたらいで、それが

ただけ嬉しいんです。でも私にとっては

あたり前のことをありのままにお話し

ただけですから、そんなに価値があると

は思いませんけど――。

だが彼女は宗教とは無縁な二十三歳の

快活なお姉さんだ。一見十九歳ぐらいに

しか見えぬこの“秋田おばこ”は（実際

は“おばこ”というのは十七、八歳の可

愛い娘さんを意味する）と彼女は説明した

とき、彼女は彼女の持主である

日本GAPは重要な活動を運行するた

めにいま結集しようとしているように思

われます。先生を中心として素晴らしい

活動が展開するでしょう。

会員の皆様方、お幸せにおすごし下さい。

(完)

彼女の不思議な体験については、いわゆる心靈的な要素は全くない。夢による体験が多いけれども、普通人の見る支離滅裂な夢とは異なつて、すべて内容は整然としてスジが通つており、このような夢ばかりを見ること自体が謎である。

本号24頁の上段でアダムスキーハ「普

通の夢とトランスク状態または心靈的な夢との類似性云々」と述べているのは、両者が同一といふのではなく似た異なるものであることを意味している。つまり普通の睡眠時の夢と一種の失神状態または狂気の状態以下の幻覚とは異なるという意味である。編者は別人による後者の例もかなり見聞したが皆不気味であった。

本人は三月末に父君の転勤により秋田市より青森県内へ移住した。そして今年七月には結婚する予定で、相手は同じくGAP会員の某氏である。宇宙的な家庭の建設とご多幸をお祈りしたい。

なお、この記事の作成にあたって、編者の秋田市への出張その他の件で彼女よ

りたいへんお世話をなつたことを特筆したい。彼女の哲学や思想は単なる概念だけではなく、実際に他人を援助するための実践が伴うものであることを知つて感銘を深めた次第である。

こうして人間の魂の中に“忘れ得ぬ人々”的記憶を次々と蓄積し、それを永劫に持ち運ぶことが宇宙的な成長への重要な要素の一つになるのである。

高貴な素晴らしい人々との出会いと大

きな影響とを求めて今後もこの世界を

街舗し、ささやかな活動を統けてゆくこ

とにしたい。

読者の皆様に少しでも役に立てば、それだけで嬉しいんです。でも私にとっては

ただけ嬉しいんです。でも私にとっては

あたり前のことをありのままにお話し

ただけですから、そんなに価値があると

は思いませんけど――。

快活なお姉さんだ。一見十九歳ぐらいに

しか見えぬこの“秋田おばこ”は（実際

は“おばこ”というのは十七、八歳の可

愛い娘さんを意味する）と彼女は説明した

とき、彼女は彼女の持主である

日本GAPは重要な活動を運行するた

めにいま結集しようとしているように思

われます。先生を中心として素晴らしい

活動が展開するでしょう。

会員の皆様方、お幸せにおすごし下さい。

(完)

読者の皆様方に手紙その他で連絡するこ

とは極力遠慮されたい。彼女は他人の過

去世透視、未来の運命の予知などはいつ

さい行わないという。



「空飛ぶ円盤の真相」改題・改訳

〈連載第9回〉さらば空飛ぶ円盤

11章

自分自身やこの世界での生きる目的、または他の惑星から来る人々に関する眞実な知識情報などをいつそうよす理解しようとする人々の中には、こんにち非常に混乱が存在しているので、現在一般に誤用されている少數の語句の定義を述べておくのもいいだろう。

これらの語句は異星人問題に関して用いられるようになつた言葉だが、現在用いられている意味からすれば、それらは全然無用な語である。

以下に述べられた各定義を注意深く研究されるならば、もともと根本的には各語が現象の形あるものの背後にある真因の理解を求めることが意味するものであることが読者にはすぐわかるだろう。

■ **psyche**（靈魂、精神）または、**psychic**（心の、靈魂の）という語は、人間の心または魂に関する語で、この場合の心とは混乱や分裂に満ちた感覚器官の心である。**psychic**は催眠術やオカルティズム（神秘学）などのようある異常な、曖昧な精神的現象を意味する。

■ **occult**（秘學、神秘学）は、理解の目から隠された物事を意味するために用いられる語である。物質の“神秘的な”性質というふうに、謎めいた、目に見えない、秘密の、探知できない物事である。中世の神秘科学というのは、現在のいわゆる物理的、自然的な科学、すなわち化學、物理、天文学などであった。

■ **occultism**（神秘学）は、これ 자체は神秘的な物事の調査である。すなわち東洋で行われた神智学の一體系に与えられた名称である。この道の熟練者は、全く

自然な手段によって、表面上では奇跡的な結果を生み出すことができると言つてゐる。

■ **theosophy**（神智学）とは、神に関する知識を学ぶことであり、これは神の心の性質と目的にたいする洞察力、または特殊の事象にたいする知識を求ることであつた。特にそれは、神的な物事に関する知識は、恍惚状態、直感、または特殊な啓示などによつて得られるという考え方にもとづいた一種の宗教であつた。

■ **philosophy**（哲学）はこんにち理解されてゐるよう、究極の原因（複数）によつて宇宙のあらゆる現象の説明をしようとする宇宙的（普遍的な）科学と定義してよいだろう。それが何かの特殊な分野の知識に應用される場合、その問題（特殊な分野の知識）に関連した付隨的な現象または事実のすべてを含む、一般的な法則（複数）または原理（複数）などの集成を意味する。

■ **metaphysics**（形而上学）という語については大きな混乱が存在している。

現代のいわゆる（西洋の）精神治療家は全然形而上学を應用していない。彼らは実際には本当の形而上学的概念のいずれについても全く関係のない似非宗教的概念をでつちあげてきたのである。形而上学はあらゆる現象の説明の背後にひそむ究極の原理に関する科学であり、大体においてそれは哲学である。心の哲学である **psychology**（心理学）すなわち精神的現象に関する科学は、形而上学の一分派である。



▲アダムスキーとアリス・ウェルズ（右端）。

述べた眞の意味に比較してみると、現代の心靈學は、科學や形而上學の眞の科學の曲解以外の何物でもないことがすぐわかるだろう。

ある原型がくり返される

人間は一夜でこれらの科學に関する理解を得ることはできない。このような知識を得るためにには生涯の探求と生活とを必要とする。眞の研究家は決して名声を求めるところなく静かに生活し、学んでいたる事を研究し、應用する。このような研究家は目に見えない原因と目に見える物質的形態とのあいだの分離を決して認めようとはしない。また、このどちらも「互いに相手がないくとも存在し得る」ということも認めない。外形上の融合が全体を可能にするということを認めるのである。

異星人に関する二セ予言

そこで、予言力と予言するための理解力を一夜で得たと称して、個人的な約束をしている現代の多数の心靈的な人々と、異星人と交信していると称している人々とをくらべていただきたい。肉体的なコンタクトだろうが心靈的なコンタクトだろうが、おかまいなし。大抵の場合、彼らの情報はウイジャボード（心靈通信用の文字板）、自動書記、トランス（失神状態）、または自分の心の中に“語りかける”目に見えぬ人などを通じて受信されるのだ。

このようにして学ぶまじめな探求者は、

人間と自然の両方について何かの予言し得ないものが存在するために、未来にたいする正確な予言はできないのである。特にある原型が完全に実現するかどうかに關して、その日時と場所についてはなおさら予言はできないのだ。

以上の理由で聰明な人は「事件が発生するぞ」といつた恐ろしい警告は決してしないし、「ある時期に予測不可能な事が起つて、物事の成り行きを変えるかも知れない」という、はつきりした約束などもしないのである。

ついには明確な出来事になる原型を観察することが、ときとして可能になる。世界のもうもうの出来事の歴史を通じて、ある種の原型が何度もくり返されている。これを研究する人は、他の諸条件の介入がなければ時が過ぎるにつれてこの原型がふたたび現れることに気づく。

人間と自然の両方について何かの予言し得ないものが存在するために、未来にたいする正確な予言はできないのである。特にある原型が完全に実現するかどうかに關して、その日時と場所についてはな

おさら予言はできないのだ。

友星人はだれにたいしても拘束しようとはしない。私の知る限りでは、彼らの唯一の代理人として働くようになり任命された地球人は一人もいない。たしかに多くの人がすんで奉仕をしたけれども、だれ一人として他のすべての人の上位に指命された者はいないのである。

ヨーロッパでは二人の「アシュター」に関する報告を受け取った。

（訳注）アシュターとは、ある自称コントラクターマンたちによって異星人の大将といわれた仮空の人物）

この二つのアシュターは性質が完全に異なるけれども、どちらも多数の宇宙人の最高司令官だという。

こんないかがわしい者から個人的なコンタクト（会見）の約束や、ときには日時と場所について特定の日付や指示事項などさえ出されているのだ。こんな約束などさえ出されているのだ。こんな約束が実現したという話を私はまだ聞いたことがない。多くの人は宇宙船に乗せてやると約束されながら、それが実現しなかつたときに無残にも幻滅を感じているのである。

また、大変動が発生するという警告もあって、「精神波動を高めた」人々を乗せて救つてやるという約束もあるが、これも同じ部類に属するものだ。これらは

ついては明確な出来事になる原型を観察することができる。ときとして可能になる。世界のもうもうの出来事の歴史を通じて、ある種の原型が何度もくり返されている。これを研究する人は、他の諸条件の介入がなければ時が過ぎるにつれてこの原型がふたたび現れることに気づく。

人間と自然の両方について何かの予言し得ないものが存在するために、未来にたいする正確な予言はできないのである。特にある原型が完全に実現するかどうかに關して、その日時と場所についてはな

おさら予言はできないのだ。

友星人はだれにたいしても拘束しようとはしない。私の知る限りでは、彼らの唯一の代理人として働くようになり任命された地球人は一人もいない。たしかに多くの人がすんで奉仕をしたけれども、だれ一人として他のすべての人の上位に指命された者はいないのである。

ヨーロッパでは二人の「アシュター」に関する報告を受け取った。

（訳注）アシュターとは、ある自称コントラクターマンたちによって異星人の大将といわれた仮空の人物）

この二つのアシュターは性質が完全に異なるけれども、どちらも多数の宇宙人の最高司令官だという。

こんないかがわしい者から個人的なコンタクト（会見）の約束や、ときには日時と場所について特定の日付や指示事項などさえ出されているのだ。こんな約束などさえ出されているのだ。こんな約束が実現したという話を私はまだ聞いたことがない。多くの人は宇宙船に乗せてやると約束されながら、それが実現しなかつたときに無残にも幻滅を感じているのである。

また、大変動が発生するという警告もあって、「精神波動を高めた」人々を乗せて救つてやるという約束もあるが、これも同じ部類に属するものだ。これらは

球人をコントロールする計画をもつて、宇宙人が大量に着陸する」という約束がこれまでしばしば行われてきた。「これが実現したときには私が選ばれて世界の支配者になる」と公言した人もある。これは大ウソだ！

友星人はだれにたいしても拘束しようとはしない。私の知る限りでは、彼らの唯一の代理人として働くようになり任命された地球人は一人もいない。たしかに多くの人がすんで奉仕をしたけれども、だれ一人として他のすべての人の上位に指命された者はいないのである。

ヨーロッパでは二人の「アシュター」に関する報告を受け取った。

（訳注）アシュターとは、ある自称コントラクターマンたちによって異星人の大将といわれた仮空の人物）

この二つのアシュターは性質が完全に異なるけれども、どちらも多数の宇宙人の最高司令官だという。

こんないかがわしい者から個人的なコンタクト（会見）の約束や、ときには日時と場所について特定の日付や指示事項などを簡単に否定するようになつて、それらすべてを等しく価値のないものとしてしまつた。

今は少しづつながらも、現在発達しつある科学上の出来事によつて、思案家たちはもはや否定できない物事の論理的な説明を求めている。しかし彼らは空想やサギなどを求めてはいないのだ。

心靈的な通信は本物ではない

「で私が言いたいのは、トランス、

ウイジャボード、自動書記などの方法によつて、さまざまの型の“メッセージ”を受け取っている多くの人は、自分の体験が眞実なもので、自分の心の外から來たものだと確信しているらしいということである。

だが實際には、このようないい体験は潜在意識によつて生み出されるもので、それは、眠つてゐるあいだに人間の姿を見たり声を聽いたり、知的な会話を交わしたり、ときには、目覚めているときには絶対にやれないような晴らし離れ業を演じたりすることができる“夢”に比較できるものである。

人間の心は複雑な自然の電子機械であつて、自己誘導のトランス状態は潛在意識にたいする開いた入口になる。この半催眠状態において潛在意識が哲學的な人生観、UFO、世界的な事件などの謎にたいして深い観察をし始めると思われるのである。

このいわゆるメッセージの受信者が目覚めたとき、本人は、外部で起つた働きが、受信された情報の源泉だと確信する。本人は普通の夢と、トランス状態または心靈的な夢との類似性に気がつかないのだ。

眞実のテレパシーとは

人々が日常の雑用を行つてゐるとき、心を通じる手あたりしだいの想念の多くは、もし注意深く取り上げて評価されると、宇宙の知識の貯蔵庫から直接に価値ある情報をもたらすことがある。

このようないい概念は本質的に眞実のテレパシーなのである。本当に発達のために必要な体験と知識をつくりあげるのに有用である。それは靈魂や、この世界、またはこの世界の外部などから来るのではないのだ。

宇宙的な性質をもつこのようないい概念は、正しく同調できるほどの能力を個人が発達させたとき、本人は破壊的な目的よりもむしろ建設的目的に向かう道筋になるだろう。分裂や個人的な野心の想念は消え去るだろう。深遠な哲学的性質を持った、長い時代の宿題となつて、もうもろの疑問の背後にひそむ解答を見つめるだろう。

その人は自然の各種の力を動力に利用することができるようになり、全宇宙が開いて、しだいに宇宙みずからをその人に洩らすだろう。この方向における研究は、個人がそれをどのような名称のもとに分類しようとも、眞に科学的なものである。

過去四分の一世纪のあいだ、この世界の人々は目覚めてきて、かつてないほどに良き理解を求めてがつてゐる。異星人から送られたと称してこにち流されてゐる心靈的なメッセージの誤りをすぐ見分け、知恵を求めて他の方面を探求する人もある。また二七指導者からエゴを与えられた喜びで宇宙になつて、しばらくのあいだ停滯して遊んでいる人もある。しかし永遠はあくまでも永遠であるので、この子供たちはいつかは遊びに飽きて、ふたたび知恵と理解を求めるようになる。

テレパシーはあらゆる人に生来そなつてゐる能力なのだが、しかしこの通信法によつて正確に受信したり理解することが重要である。というわけは、概念のすぐれた受信者になるためには、個性がこの科学を研究しているけれども、私がこの科学を研究しているけれども、私たしかに、こんちこの世界の多数の人をも加えて、それをマスターした人はほとんどいないのだ。

人間の心は、やつて来るあらゆる印象がこの科学を研究しているけれども、私がこの科学を研究しているけれども、私たしかに、こんちこの世界の多数の人をも加えて、それをマスターした人はほとんどいないのだ。

異星人は送信と受信の両方においてテレパシーの達人である。われわれのだれもが自分に聽きとれる物事を自分の好みに応じて解釈したがることは、親しい友人間でさえも、そして誤解の意図はない。でも、ほとんどの地球人の特長であることを異星人は知つてゐる。それがくり返されると、聴き手の解釈に沿つた情報が開いて、しだいに宇宙みずからをその人に洩らすだろう。この方向における研究は、個人がそれをどのような名称のもとに分類しようとも、眞に科学的なものである。

しかも地球上の多種類の言語には、同じ語で意味の異なるものがある。これは一国だけのことではなく、同じ語で異なるながら国家間で全く異なる意味に翻訳されることがよくある。

たとえば一人の人が電話で話し合つてゐるとして、一人がのべつまくなしにしゃべり続けると本人は相手が首おうとして、こうしてたび重なる誤解と混乱とを生じるのである。

一般的の地球人の心は全くこの“のべつまくなしのしゃべり手”的なものがいけないのである。

たとえば一人の人が電話で話し合つてゐるとして、一人がのべつまくなしにしゃべり続けると本人は相手が首おうとしていることを聽くことはできない。すべてを完全に排除することが必要である。いいかえれば、“話し中”であつてはいけないのである。

たとえば一人の人が電話で話し合つてゐるとして、一人がのべつまくなしにしゃべり続けると本人は相手が首おうとしていることを聽くことはできない。

一般的の地球人の心は全くこの“のべつまくなしのしゃべり手”的なものがいけないのである。心が何事かを、またはだれかの話を聽きとれるほどに静まることはほとんどない。表面上聽きとれる状態にあるときでも、後になつて尋ねるための質問を作つてゐるか、または聞くのを中止して、いま聽いたばかりの内容についてあれこれ考へよつと、こうして、統けられる相手の話の内容を聽きのがしてしまつたのだ。

もう一度説明すると、現在、異星人という語は無線電報を意味するが、オーストラリアではいわゆる蓄音器、つまりレコード演奏器を意味する。まだ多くのこのような相違例があつて、これは旅行するかまたは一ヵ国語以上の言語を研究すればわかることだ。

精神的にコンタクトしていると称する人々のほとんどは、外出してからだれもいな静かな家に帰つて来た主婦にたとえてよい。

彼女はさびしさをまぎらすために、特定の番組を選ばずにラジオかテレビのスイッチを入れる。さびしさをまぎらすのだから家の中に人間の声が響いておりさえすればよいのだ。

宇宙空間ばかりでなく各惑星の周囲にある大気は想念波動に満ちていて、その波動は過去や現在のもあり、またいろいろな特長をもっている。だから理解力もなく“メッセージ”を求めて自分の心を開放する人は、性質のいかんにかかわらず通過する想念のいずれにたいしても絶好の受信者になる。だからこそ多数の恐ろしいメッセージやウソの約束などが受信されるのだ。

このメッセージ類はかつて人類がなん

らかの奴隸の状態になりさがつた頃の歴史上の事件のくり返しにすぎないのであって、そのために知恵と人間同士の尊敬とによって確立され得る平和、幸福、眞の自由という生得の権利を失ったのである。

異星人は地球人のこのような状態のすべてを知っている。彼らはそれを非難しない。なぜなら、そのような状態は不愉快な体験であるとしても生長の一過程であることを彼らは理解しているからだ。このような体験（二七のテレバシー）を形成する構成要素は眞の理解の前では勝ち目はないということも異星人は知っている。地球人に知識情報を伝えるのに彼らがこれまでテレバシーを用いなかつたのは以上の理由によるのである。

私の場合がそうであったように、異星人の個人的会見は“ある程度の”テレ

バシーでもって行われる。これは彼らが授けようとする知識が正しく相手に伝えられているかどうかを思慮深くしかめだためである。それでさえも知識を授けられた人のちよとした曲解から、彼らの言葉について誤った解釈や不正確な説明が行われてきた。他人の自称テレバシーは必ずしもあてにはならないのだ。

異星人は神様ではない

地球の兄弟たちを援助しようとして異星人たちが直面した別な問題は、異星人の来訪を宗教化させている人たちの問題である。宇宙人の名のもとに多くの宗教団体が発立しているけれども、宇宙の兄弟たちはこれを全く喜んではいない。

異星人は超人ではないのだ。彼らは神ではないので礼拝されることを望んではいるのである。

彼らにとっての“宗教”とは“至上な

る英知”だけによって絶えず与えられる

新しい思想と理解とをもつて、大自然によつて教えられながら生きかれる生命の

科学なのだ。地球人が宗教問題を自分で

考へようとはほとんどしないで、福音の

真理として他人から伝えられた宗教的解釈を受け入れるようにどの程度教えられてきたかに彼らは気づかなかつた。

ブザーズ（友星人）は地球のわれわれのように宗教的戒律や礼拝の儀式など

をも望まない理由が明らかになつてくる。

異星人とその来訪について宗教団体を

作つたりする人は、彼ら自身の特別な恩恵にあざかろうとして、人類を無知な状態にしていた各種の宗派に協力し活動し

てきたのであり、現在もそうしているのである。

またなかにはまつと“サイレンス・グ

いうものは、もっぱら着古した儀式用のマントによつて生み出されたにすぎない。

根本的にはみな同じなのだ。

人間にとつて知つておくのがよいと考

えられた物事の解釈やその個人的な選択上の誤りをおかしながら、しかも数世紀を通じて伝えられてきた宇宙的な知恵の解釈を信仰の上だけで受け入れて、自分の考え方を他人に押しつけたりしている限り、地球人は宇宙の法則または宇宙の創造主の生きた知識を決して得ることはないだろう。

人間は宇宙の知識を得るために何事をもあきらめる必要はないし、宗教的信仰を変える必要もない。人間はただ自分で考えさえすればよいのだ。自分の考え方を自分自身の中へ閉じ込めたり、他人に自分の思想を非難させたりしないで、自分の思考を天地万物の中へ没入させる

のではないので礼拝されることを望んではいるのである。

彼らは宇宙の知識を得ようとして異星人の名のもとに多くの宗教団体が発立しているけれども、宇宙の兄弟たちはこれを全く喜んではいない。

異星人は超人ではないのだ。彼らは神ではないので礼拝されることを望んではいるのである。

彼らにとっての“宗教”とは“至上なる英知”だけによって絶えず与えられる

新しい思想と理解とをもつて、大自然によつて教えられながら生きかれる生命の

科学なのだ。地球人が宗教問題を自分で

考へようとはほとんどしないで、福音の

真理として他人から伝えられた宗教的解

釈を受け入れるようにどの程度教えられ

てきたかに彼らは気づかなかつた。

このことを理解するならば、異星人が彼らの名のもとに作られた宗教団体のいずれ

かを奉仕なのである

「勞せずして金を得ようとするのは宇宙の法則に反している。他人に奉仕するこ

とが奉仕なのである」

このことを理解するならば、異星人が彼

らの名のもとに作られた宗教団体のいずれ

かをも望まない理由が明らかになつてくる。

異星人とその来訪について宗教団体を

作つたりする人は、彼ら自身の特別な恩恵にあざかろうとして、人類を無知な状態にしていた各種の宗派に協力し活動し

てきたのであり、現在もそうしているのである。

またなかにはまつと“サイレンス・グ

ループ”（〔訳注〕正しいコンタクトマン

を否定して、妨害し、抹殺しようとして暗躍する秘密の団体）から金をもつて

いるものもあるだろう。このサイレンス・

グループの最大の眼目とするところは大衆をあざむいて自分で考えさせないよう

にし、無知の状態にさせておくことにあ

るのだ。

その目的が何であつても、まじめな探

求者の道に混乱をひろげており、同時に、

あくまで自分で考えようとする人の持

つてゐる計画のすべてに嘲笑が投げかけられるのである。自分で考える人は、何

か合理的なものが事態にかかわつてくる

までは、他人から聞かされる物事のすべ

てを信じようとはしない。このようにし

てその人は確固たる基礎を持つて確信を打ち立てることができるのだ。

われわれと同じ普通の人間である別な

惑星の友は、結果的には混乱をひき起こすこのような虚偽が彼らの地球への来訪を利用してでつちあげられたり続けられたりするのを黙視できなかつたのである。

地球人の心にひそむこの問題を私が明らかにすることが最重要だと彼らは語つてくれた。世界講演旅行がとりきめられたのは以上の目的的ためである。回顧してみると、この計画のための基礎は数年前に始まつていたと思う。

一九五五年の「宇宙からの訪問者」出版によつて行われるようになつた文通とともに最初から旅行計画はたてられたのだ。その年、世界各国のある人々が右の著書に感銘を受けたあまり、私に手紙をよこしたのである。

（第一部完）

改訳

レバシー開発法

アダムスキー

田中正司訳

人間を含むあらゆる生物は共通の宇宙語で語り合ふ。この宇宙語こそ万物を生かす宇宙力そのものであり、人間が自己のマインド(心)をこの宇宙力と一体化させるととき、眞のテレパシー能力が発現する。

この講座は1958年にアメリカで刊行された不朽の名著の邦訳書としてすでに20年間愛読され、わが国で「テレパシー」という語の流行源ともなったが、今回アダムスキー全集刊行を機に徹底的に全面改訳して決定版とした。この講座により多数の読者に宇宙的なテレパシー能力が発現すれば幸いである。

テレパシーはあらゆる生きものに本来そなわっている自然の能力であつて、これにより自分のフィーリング(心で感じていること)を他のすべての生きものに伝えることができます。

自然界はまちがいなくこの法則に従つており、一つの統一された全体として現象界を実現させるために、万物は自分自身を惜しみなく与えています。

人間とは活動する想念体です。しかし理解力の乏しさから、さまざまのゆがみを引き起こし、そのため現在いたる所に見られるような大混乱が生ずるようになりました。人は働くための道具をいろいろ持っていますが、無我の自己表現というもとと大きな分野で人間に奉仕する力を持つという自覚は失つてしましました。

△第1部

第1章 テレパシーすなわち宇宙語

“科学する心”と銘打たれた書棚には、知られてはいるもののいまだに解決を見ない無数の生命の謎に関する書物が、秩序正しく分類されて整然と並んでいます。ときどき探求心のさかんな人がホコリにまみれた古記録のなかの一巻を取り出し、仲間の注意をうながすだけです。

現象の背後に宇宙の英知が

次な表現に発達させ拡張する能力は、円、三角形、四角形の紙がおさめてある万華鏡にたとえてよいでしょう。回転するととに新しい模様が展開します。同じ模様は二度と現れません。人間も大宇宙と一体であるという自覚を広げるならば、万華鏡の場合と同じ変化の法則が、絶えず変転し生長してやまない模様を描き出します。充実した生命を人間に与えることで、充実した生命を人間に与えるでしょ

う。この目的を達成するには、肉体の触感は神経の反応にすぎないけれども、心で起こすフィーリング(感じ)は警戒しようととする状態であるということを理解する必要があります。

眞の警戒の状態とは意識的意識(自分の意識を大宇宙の意識と一体化させた状態)であつて、これこそすべてを包含する“宇宙的な知識”です。

こうして人間は知識を積み重ね、一步

ごとにより高度なものに近づいてゆきましたが、謎が完全に解明されることはありません。あらゆる分野の現象の背後にはすべて“宇宙の英知”がひそんでいるからで、しかもそれを完全に理解する力は人間に与えられていないのです。

数千年ものあいだ、人間の精神の問題を扱つたその謎の書物に埋もれて朽ちかけていた書物の一冊に読みとれる文字、それは「テレパシー」です。

テレパシーとは何か

現代文明のさなかに生きる人でも、未だ出来事の映像を感じしたり、遠い場所で発生する事件の印象を得たりするよう、ある種の人々にそなわっているこの能力には、いつも驚異の念を起します。

しかしこの謎も一八八五年までは科学的な研究の対象としてとりあげられませんでした。この年にPRS（物理学年会）はこの分野の権威者マイヤーズ氏の名でもって次のような声明を発表しました。

「既知の感覚器官の正常な働きによらない遠隔地の出来事を感知するような事例はすべてこれを『テレパシー』と呼ぶことにする」

だが少しのあいだは関心の高まつたこの問題も、ついには未解決の分野に入れられてしまいました。

しかし第一次大戦の終結後、十年を経て初めて数ヵ所の一流大学の研究所が、科学的研究の価値あるものとしてテレパシーを重視するようになりました。そし

て古代には魔法か妖術と考えられたテレパシーも、諸大学で行った実験の結果、研究にあたつた明確な事実であることが決定的に立証されたのです。

だけどPRSの最初の声明も科学界がこんなにもがいている危険な障害になつてきました。というわけは、テレパシーは既知の感覚器官の“正常な働き”とは別物だという仮説にもとづいて研究をするうちに、テレパシーなるものを実際的な分析よりもむしろ神秘的な仮定の分野に入ることになったからです。

その結果、テレパシー研究は、最初の動機はよかつたけれども価値のないものだということになつてしましました。いまこそテレパシー研究を周囲の混乱から救い出し、“宇宙のどこでも通用する言語”として其の基礎の上にもう一度おき返してやらねばなりません。

テレパシーは本当の万国共通語

近年は民族や国家相互間にいつそうのよき理解ともつと永続する関係を望む気運が一段と高まっています。ラジオ、テレビ、無電などの発達により、世界を結びつけようとする動きが大きくなつきました。当然のことながら、このために萬国共通語を発達させる可能性が学者間でいろいろ論議されるようになりました。共通語があれば諸国民の交流はもっと容易になるからです。エスペラント語またはローマなど、いわゆる共通語は二、三考案されていますが、全人類が等しく認められる言語システムはまだ発達していません。

われわれは言語というものを、文字または音声というかたちで描き出す絵画のようなものだと大体と考えています。したがつて知識を交流するための満足のゆく方法を求めるにあたつては、当然これまでに親しんできた表現法に目を向けていました。しかし音声や文字に頼つていました。人間はきわめて狭い範囲の分野しか扱えないのです。

万国共通語というアイデアを最初に考えた人たちは、自分たちのインスピレーションを大自然から得たということを知れば驚くかもしれません。この事実に気づいている人はほとんどいませんが、宇宙そのものと同じほどに遠い昔から一つの共通語は存在していたのです。

これこそ人間だけでなく生きものすべての表現手段を包含し、しかも生まれたばかりの子供にも理解できる、きわめて簡単な言語なのです。

このように容易に感受され、理解できて、しかもたやすく意味が読みとれる通信方法とは何でしょうか？

眞の共通語はただ一つ存在します。それは“宇宙の力”として万象をつらぬいて流れている、目に見えない、創造的な感觉インパルス（感覺を起こさせる衝動または刺激）である“宇宙の英知”そのものです。この“宇宙の因”すなわち“宇宙の力”は常に活動しています。それは必然的に一物体から他の物体に作用し、それ自体を伝達しているにちがいありません。

金星から来た観測機（円盤）の乗員、すなわち別な惑星から来た訪問者と初めて会見したときには、私は意志伝達の手段としてテレパシーを用いました。

（訳注）詳細は文久書林刊「アダムスキー全集」第一巻「宇宙からの訪問者」の第一部に掲載されている

それは自然界の一つの法則、すなわち宇宙の諸法則の一つです。

ん。

テレパシー（精神感応）と呼んできたこの感覚インパルスこそ、偉大な宇宙語（万国共通語）なのです。

この宇宙語が全人類に理解されるとき、民族や主義という人間の作り出した障壁はくずれるでしょう。うねばれ、欺まん、虚榮は宇宙語の前で消え去り、その普遍性によつて人間と人間、人間と大自然は調和するでしょう。この宇宙語こそ宇宙のあらゆる原子が語りあい、理解できる一つの言語であるからです。

人間の意識的な想念というものは意識のあらゆる状態で知られています。やさしい囁きも、芝居がかつた声による話しぶりも、文字の線による巧妙なごまかしも、本人の想念の性質や意味を隠すことできません。宇宙的な想念は真理そのものであつて、それをゆがめることは不可能です。それは活動の法則であり、いかなる物がその法則の接触点になろうとも、公平に作用と反作用とを生じさせるにちがいなく、またそのようにやつてゐるのであります。

テレパシーは宇宙の法則

金星から来た観測機（円盤）の乗員、すなわち別な惑星から来た訪問者と初めて会見したときには、私は意志伝達の手段としてテレパシーを用いました。

この想念伝達法には神秘的なものや不可知なものは全くありません。なぜなら人間はテレパシーによって日々の生活を送っているからです。

いかなる想念もまず心の中で組み立てられないことには口に出して表現することはできません。このことは一般の人が自動的に行っているのですが、通常、人間の心は

(1)肉体の外界にたいするあらゆる運動を指示する。

(2)音声による表現を与える前に、まず自分の想念の組立み立てと整理を行う。

(3)外界からも絶えず想念印象の流れを感じている。

精神の未発達な人はこの印象の流れから、自分の心がすでに作りあげていた意見に合致する想念だけは取り入れますが、類似しない想念は拒絶してしまいます。だからこそ人間は自分自身を理解するまでは、結果の世界（現象界）だけによって導かれるのです。

次のように言われました。

「自然人（自然と調和した人）には聖靈の道がわかるけれども、自然と調和しない者にはわからない」

これは、ひとたび人間が“宇宙の因”と一体であることを悟り、その法則を応用し始めるならば、もはやそれ以上の指導者は必要でなくなるという意味です。

なぜなら“宇宙の法則”が人間に生命を与えたのであり、その法則が人間の指導者となるからです。毎日使用しているにもかかわらず、われわれはその存在に気

づいていませんが、その偉大な宇宙語はとどろく雷鳴の中からもわれわれに語りかけるし、万象の母も深い休息の静寂の中からわれわれに親しく話しかけていきます。

人間は本来完全なるもの

性格は人によつてみな違いますから、だれにもあつてはまるようなはつきりした規律を設けることはできません。ここで法則を提示できるだけです。これは各自の理解力や実行の程度に応じて有効となるでしょう。理解力や実行法も人によつて相違があるでしょうが、ここに述べる原理はすべての人々に等しく適用できるものです。

このレッスンがあなたにとって多少とも有益だとお考えになつたら、自分で実行し始めて下さい。

必要なのは、自分の肉体の各部をよく知つて、各部がなぜそのような働きをしているのか、自分の思考をコントロールしているのは何か、内部の自我と周囲の世界とのあいだになぜこのような摩擦があるのか、などを知らねばなりません。

充実した生命の表現者になるには、まず自分の感情の反応を理解する必要があります。

常に留意しなければならない、きわめて重要な真理があります。それは「宇宙発達をとげた人類」と融合する必要があることを私はここに力説しましよう。

地球上人は“宇宙人（他の惑星で高度な発達をとげた人類）”と融合する必要があることを私はここに力説しましよう。そのどちらにもテレパシーの感受力はあります。しかし印象を感受する場合には始めもなく終わりもない。宇宙は過去、現在、未来にわたって存在するすべてであり、「永久の運動である」ということです。

人間は万象のなかで完全な表現物であるように創造されました。そして現象の世界のあらゆる面を理解できるかもしれません。ないと考える能力を持ちました。人間は最低のものから最高のものに至るあらゆる段階の宇宙的な表現を理解することができるのです。

しかし無知のために人間はこの神から贈り物を悪用し、いまや自分の周囲に見えるものを裁き、非難しています。気がつくか気がつかないかにかかわらず、裁くことによって自分を創造主よりも高い地位において、そのため自分と“あらゆる生命の与え手（創造主）”との分離感を持つに至りました。

しかし人間は自分の肉体の心が作り上げた足かせをはずすならば、“知る者”となり、そのとき万物の背後にある“宇宙の因”と一緒にになるのです。萬象は、それを生み出した“至上なる英知（創造主）”と調和して働いていますが、人間だけは孤立し、法則の曲解者になります。

宇宙人と地球人との大差

地球上人は“宇宙人（他の惑星で高度な発達をとげた人類）”と融合する必要があることを私はここに力説しましよう。その念をいたくことはありません。そのような念が肉体の化学作用にどんな影響をおよぼすかを知っているからです。彼らの感覚器官の心（肉体の心）は、“宇宙の感覚器官の心（肉体の心）”と等しいままでに高められています。したがって彼らの肉体細胞のすべては感覚器官の心（肉体の心）によって与えられた命令に個人的な感情などを含んでいますが、一

方“宇宙の因”から万象に及んでいる宇宙人の放つ印象は理解と同情とを伝えるのであって、非難を含んでいません。これこそ“真理”的研究はあなたが持つかもしない宗教的信仰の妨げになつたり矛盾したりすることは全然ありません。テレパシーは宗教ではなくて“宇宙の法則”的一つであるからです。この法則を知れば、あなたは自分自身を大きく理解できるようになりますし、あなたの住んでいたりする宇宙とあなたとの関係もよくわかるようになるでしょう。

われわれよりもはるかに高度な発達をとげている異星人は、いかなる生命体もすべて喜びに溢れた自由に行われるものであることを学びとっています。彼らは日常の雜用をわざわざしないと考えることではなく、むしろそれを、より多くの奉仕を“宇宙の因”に捧げるための特権とみなして、雜用を通じてその特権を表現せしめているのです。

彼らは幼時から肉体の適当な保護と心の用い方とを教えられています。不調和の念をいたくことはありません。そのような念が肉体の化学作用にどんな影響をおよぼすかを知っているからです。彼らの感覚器官の心（肉体の心）は、“宇宙の感覚、すなわち宇宙の因の心”と等しいままでに高められています。したがって彼らの肉体細胞のすべては感覚器官の心（肉体の心）によって与えられた命令に

この法則を應用することによって彼らの肉体は年齢に関係なしにいつまでも強健で若さを保つのです。

(訳注)偉大な進歩をとげた異星人は、數百歳でありながら二十数歳にしか見えないとアダムスキーは「宇宙からの訪問者」でこの点を詳細に伝えている)

彼らは、あらゆる生命は絶えまなく活動するのであり、創造物のあらゆる分子が「宇宙の因」の自由無碍な發現をしながら自分の義務を遂行していることを知っています。

私たちも日常生活において、これと同じような喜ばしい、ゆったりした心の状

態を保つことができるなら、私たちの意識も宇宙的な価値のある印象が自然にやつてくる位置にまで高められるのです。

これは人間がその場合に周囲の世界を無視するようになるという意味ではあります。なぜなら人間は人類という全体を構成する一単位として「生きる」ためにこの地球に生まれたのであって、しかもこの役目を放棄する権利を持たないからです。眞の理解すなわち進化は同胞にたいする関心を呼び起こすでしょう。そのとき万物と兄弟であることを自覺するようになるからです。

第2章 人間の四つの感覚器官

想念伝達法についてくわしく知らせて

くれという手紙が全世界から私宛に殺到しました。これらの手紙のほとんどは次のような質問を述べたものでした。

「テレパシーとは何か?」「それはどんなふうに作用するのか?」「この想念伝達法を私も應用できるか?」

他のテレパシー術者がどんな方法で理解したのか私は知りません。私が答えるのは、私自身の方法をどのようにして習得したかということだけです。

ずっと昔、まだ若かった頃、私はまず

この問題に興味をもつようになりました。ある人々がテレパシーにより通信できることを私は知っていました。私が知ったくてたまらなかつたのは、いかなる方法によつてテレパシーが行われるのかといふことでした。それで研究を始めたので

もこの現象を説明する肉体的感覚器官を持つために、人間はこれを自分で考へついた領域、すなわち第六感ということにしまいました。その頃は(現

在もそうですが)人間の感覚器官で説明できないものすべてを、この漠然とした神秘的な分野に投げ込んでしまつたのです。

テレパシーが第六感であるという古くさい理論にもとづいた私の初期の研究は結局無意味でした。注意深い観察の後に私にわかつたことは、この理論と同じような考え方を應用している他の研究者たちも望ましい結果を得ていなかつたということです。

生来私は、なにか自然界の宇宙的な法則に一致しないものが注ぎ込まれていると感じていました。そこで自然界に目を

移して、その活動を調べたのです。すると、人間の推理力が干渉しないその自然可能性が潜在している」という考え方をもつて、それ以外に第六感などが発達するつていました。この前提は古代からあつたのですが、その頃にも普通に考えられていました。

「この想念伝達法を私も應用できるか?」

これが第六感であるといふことです。

人類が発達始めた初期には、人間は

自分たちの生きている世界を五感の現れにすぎないものとして認めていたのですけれども、利口になるにつれて人間は自分の周囲に起る説明しがたい作用、すなわち外界にたいする知覚力を超越する

かのように見える作用に気づきました。自分の見た物に首をかしげながら、しか

を保証しているのです。したがつて自然界は気まぐれに寒帯地へタネをまき散らしたりすることはなく、日光の温かい土地にまくのです。

山腹に目をあげて、さほど遠くない昔でさえも人間がまねることは不可能であったと思われるような造化の見事な菜を私は発見しました。まつすぐに、がつちりと生えている頑丈なカシの木が、絶壁の斜面にしつかりと根を張っています。

この場合、木の重量の安定性をはかるのにどの角度に根を伸ばせばよいかという問題を、自然界は計算器を使って計算したではありません。根はただ本能的に私も望ましい結果を得ていなかつたといふことです。

生来私は、なにか自然界の宇宙的な法

則に一致しないものが注ぎ込まれていると感じていました。そこで自然界に目を

移して、その活動を調べたのです。すると、人間の推理力が干渉しないその自然

の完全なバランスをとりもどすために新しい根をはやして、ただちに重量の変化

をおきなうだらうということでした。

木の根元に生い茂つている野生のボビ

ーや、斜面に点在するヨモギの茂みなども、すべてこれと同じ造化の原理を説明しています。

驚異に満ちた私の視線はゆっくりと動

き、やがて足元の草に目がとまりました。が、ここにも創造の跡がありました。

ほつそりした緑の葉を調べてみようと身をかがめたとき、私が勝手に気づいたのは、地上の人間はこの草の葉を創ること

はできないということでした。自然界だけがそのタネを發芽させ、その芽を固い土の中から日光の方へ導き、立派に成熟

自然界の驚異

南の微風に芳香をただよわせるオレンジの木は、大氣の状態を科学的に分析して温和な気候だけが生存に適していることを知るのではありません。この愛すべき木は自然の法則に従つて自己の永続性

させたのです。

たしかに、周囲で私のながめたものすべてが秩序正しく導かれコントロールされた英知の働きなのです。偶然の生長というものはなかつたのです。微細な部分のことごとくが注意深く出来上がってきました。適当な気候のなかに生長するオレンジの木、絶壁の斜面にしつかりと根を張っているカシの木、足もとの草の葉など、すべてが一つの“宇宙の英知”によつて導かれ、存在せしめられているのです。

次に私は目を移して小鳥、昆虫、獸などを仔細に観察しましたが、このどれにもやはり同じ造化の驚異を見つめました。現代の建築に関する知識の多くは、自然界が應用している原理を研究して得られたということは注目すべき興味ある事柄です。



▲ ピーバー

(原著者注)現象における生物とか無生物とかいう場合、こく普通の意味で私はそのような言葉を使用しますが、実際にこんな区別はありません。生命的の発現するものはすべて生きているからです)

あらゆる次元の世界においては、(たとえば昆虫、小鳥、獸などの世界)“生命力”が万物を生かしており、万物はまたある推力を持っています。しかしこの生物と無生物は永遠に融合しあつてゐるのです。そして地上で創造された最高の存在である人間は万物に依存しているのです。

自然界の相互依存性

植物が死滅すれば草食動物は餓死してしまい、自然のエサを絶やしてしまった食肉動物も餓え果てるでしょう。こうな

洪水を未然に防いでいます。こんなふうにしてこの小さな動物は人間と自然の両方にたいして計り知れないほどの貢献をしているのです。

(訳注)ピーバーはウミダヌキともい、水陸両生の齧歯類動物。門歯が鋭く、後ろ足に水かきがあり、尾は平たい。水流を木や枝でせきとめて巢を作る。東京の上野動物園で見られる)

ピーバーが山間の流れのあちこちに築きあげたダムは、洪水と土地の侵蝕作用を最少限度にいくとめているからです。しかもピーバーは数学上の計算を行つて完成したダムに奔流が及ぼす圧力を算出するではありませんし、ダムを堅固に打ち込んだり一定の高さに築いたりするのに機械類を使用しません。ここでも無生物界におけると同様、自然界的的な指導の手を見い出します。

(原著者注)現象における生物とか無生物とかいう場合、こく普通の意味で私はそのような言葉を使用しますが、実際にこんな区別はありません。生命的の発現するものはすべて生きているからです)

あらゆる次元の世界においては、(たとえば昆虫、小鳥、獸などの世界)“生命力”が万物を生かしており、万物はまたある推力を持っています。しかしこの生物と無生物は永遠に融合しあつてゐるのです。そして地上で創造された最高の存在である人間は万物に依存しているのです。

うろつきまわる獸から幼児を守るために作る巣の足がかりとしての高い安全な木の枝を小鳥はもはや持てなくなるでしょう。小鳥の食糧源としての昆虫、ウジ虫、毛虫などはいなくなり、山野の野イチゴは授精することなく、実を結ばないでしょう。

植物が死滅すれば草食動物は餓死してしまい、自然のエサを絶やしてしまった食肉動物も餓え果てるでしょう。こうな

動物はアレバシーの能力を持つ

さて、小鳥、昆虫、獸などを観察し統けて私が気づいたのは、彼らは気候の変化が起こる前にこれを知つてゐるという点です。それまで私は他の人と同じようにそれは本能なのだと考へて満足し、それを神秘的な超感覚的知覚作用の領域にあてはめていたのですが、現在この答はもう私を満足させません。

自然界の複雑な融合状態をたどつてみると興味ある研究ができます。個々の物すべてが他の物すべてと織り混ぜられているのです。たとえば小さな昆虫と穴む動物は、共通の福利のために重要な役割を分担しています。彼らの地下の活動は土地の空氣の流通をよくし、青草の繁茂を助けているからです。いまこの考えを一步すすめて、地上の生命体を永続させる上で昆虫が実際に果たしている不可欠の役割をとりあげてみるとしよう。

もし昆虫が突然に姿を消したら地球上にいつたい何が起るか、あなたは少しでも考えたことがありますか? おそらく生物と無生物の両方にわたって生命は停止するでしょう。“母なる大自然”は授精作用を行うために、この小さな生きものに大きいくらいでいるのです。花を繁殖させるのは花から花へ精出して飛びまわっているミツバチや他の昆虫であることを思い出して下さい。したがつてこれらのものが果たしている絶対に必要な役割がなければ、あらゆる植物は絶滅するでしょう。

れば食物を生物と無生物の両方に頼つていた人は生きることができなくなるでしょう。

このことについて書物を書けばいくらでも書けるでしょうが、それでもこの問題を完全にカバーすることはできないでしょ。しかし私は右の簡単な実例からして、はじめてな探求者ならば多くの現象に好奇心が起ると信じます。生きものの相互依存の理解が基本をなすのであって、その後に人間は次のような真理、すなわち「実際にはあらゆる生命体はただ一つの“宇宙の英知”的である」ということが悟れるのです。

自然界の驚異を観察すればするほど、自分が万物と一体であることを私はますます深く感じました。生きるものすべてが同じ空気を呼吸しており、すべてが同じ太陽や風の祝福を楽しんでいます。すべてがただ一つの根源によって生かされているのです。実際、差別といふものは存在しません。万物は同じ“自然の法則”的のもとに創られたのです。

当時私は地面の地形にたいしてカシの木に探知させ、正しい方向に根を導いた知覚力を理解したかったのです。というのは、動物界においてもこれと同じ本能、すなわち知覚力がきびしい冬の到来をりスに知らせ、春まで生き抜くための余分の食糧を貯えるように警告している事実を私はいまや見ることができたからです。万物の創造主の最高の表現物である人間が、なぜこの探知力を持たないのでしょうか？

この解答は無言で、しかも確実な知識となつてやつてきました。

受け入れようとしている人は、「宇宙の英知」にたいして自分の心を開いているのだ」と。

最高の英知を知るには



▲アダムスキーが本講座を執筆したパロマー山のパロマー・ガーデンズ住居跡に立つ訳者。

続く私の疑問は次のようなものでした。「この“最高の英知”に気づくようになるのに、どうしたら自分の心を開くことができるだろうか？」

私は身近な物事を探究し続けて、同時に、私たちが一小部分にすぎない太陽系にでも思いを馳せたのでした。それは広大無辺の「宇宙全体」にほんの一歩を踏み出したにすぎません。万物の中に決して分裂による断絶のない、絶えまなく融合を私は見い出しました。したがつて私は孤立することができず、むしろ万物と一緒にだったので。

この悟りによつて次のことことが明らかになりました。つまり、万物が人間の内部に貯蔵されていて、解答は人間が自分自身をよく知るようになるにつれて現れるということです。

「自分自身を知れ。そうすればあらゆることがわかるだろう」という有名な言葉を私は思い出しました。そのときまでは私もまたこの言葉の無限の深さに気づかぬままに、この深遠な真理をただオウム返しにくり返していたのです。

しかしいま私は、無言ではあるけれども到る所に存在する「宇宙の共通語」にたいするカギを自然界が持つていることを悟りました。そして私の求める理解を見い出し得た場所は、この現象の世界だったのです。

私の分析は続きました。私の人間としての肉体はこの「宇宙の英知」によつて存せしめられたのですから、他の自然だけでも肉体の自然の活動は「宇宙の英知」のいろいろな法則に従つていて、それが完全に理解していないのです。これだけでも肉体の活動は「宇宙の英知」のいろいろな法則に従つていて、その証拠になります。そうしますと、推理する心は全く現象の世界に沈み込んでしまって、同時にその根源を見失つてしまつて、ということがあります。たしかに人は「自分のよき才能を隠している」のです。

次に私が直面した仕事は、この覗つた考え方を追放すること、潜在する「宇宙の因」の実在を認めるることにありました。そこで私は自分の心と肉体をいつそうよく理解しようとした。それらはどんなふうに作用するのか、それらの存在の目的は、といった事柄です。

この一連の探究によって私は次のようないい認識に到達しました。それは「私を存せしめた創造主は、力をともなつた“宇宙の英知”である」

人は四つの感覺を持つ存在

物とともに私もまたその英知と法則の恩恵に浴しているにちがいありません。そうすると、なぜ私はこれらの天性に容易に目覚めなかつたのでしょうか。

科学的にみて人体は人間が複製することができない驚異的な構造を持つものであります。私は知つていました。私たちのために必要な材料を提供しますが、母体の内部で起る創造の奇跡を妊娠がコントロールしているのではありません。

以上のような考え方を押し進めてゆくうちに、私は一大発見をしました。妊娠は、「いいえ」と答えるでしょう。彼女は赤ん坊の動きを操作することはできないのです。そしてそれが動いたという知識は、その行為が行われた後に、警戒するわち「フィーリング（感じ）」として彼女にわき起こります。したがつて私たちが「フィーリング（感じ）」と呼んでいる彼女の感覺を通じて母体に知識を伝えるのは、英知ある力なのです。

言ひ替れば、「フィーリング」は万物の内部にある創造力です。したがつてテレビが第六感だという定義は全く間違つていました。人間は五つの感覺器官を持つているのではなく、四つしかないのです。

「フィーリング」要素は、感覺器官ではなく、万物に意識的な警戒力を与える英知である力なのです。

以上の説明は古くからとなえられてきた脱にたいして爆弾宣言にも等しいことを私は承知していますが、肉体人間が四つの感覺器官を持つという考え方は理屈で証明できます。（第二章完。以下次号）

ません。実は「宇宙の英知」の中のこの力が計画をたてて、私の肉体の建設を指導したのです。いかなる妊娠でも同じことです。母体はこの「主なる建設者」のために必要な材料を提供しますが、母体の内部で起る創造の奇跡を妊娠がコントロールしているのではありません。

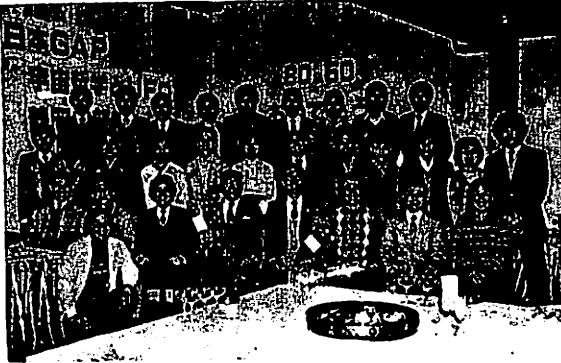
以上のような考え方を押し進めてゆくうちに、私は一大発見をしました。妊娠は、「いいえ」と答えるでしょう。彼女は赤ん坊の動きを操作することはできないのです。そしてそれが動いたという知識は、その行為が行われた後に、警戒するわち「フィーリング（感じ）」として彼女にわき起こります。したがつて私たちが「フィーリング（感じ）」と呼んでいる彼女の感覺を通じて母体に知識を伝えるのは、英知ある力なのです。

言ひ替れば、「フィーリング」は万物の内部にある創造力です。したがつてテレビが第六感だという定義は全く間違つっていました。人間は五つの感覺器官を持つているのではなく、四つしかないのです。

「フィーリング」要素は、感覺器官ではなく、万物に意識的な警戒力を与える英知である力なのです。

以上の説明は古くからとなえられてきた脱にたいして爆弾宣言にも等しいことを私は承知していますが、肉体人間が四つの感覺器官を持つという考え方は理屈で証明できます。（第二章完。以下次号）

宇宙哲学とUFO
静岡支部報
80号
50号



●二月六日(日)午後五時半より

●静岡ステーションホテル8Fホール
●参加者三十名

久保田会長が多年発行してこられた機関誌「宇宙哲学とUFO」が今回八十号となり、また静岡支部有志会員の發案により開催された。

これに先だって、この日は静岡支部の月例会の日でもあり、久保田会長は特別講演を行われた。支部月例会ではいつも久保田会長が多年発行してこられた機関誌「宇宙哲学とUFO」が今回八十号となり、この両方の發行記念祝賀パーティーが静岡支部有志会員の發案により開催された。

月例会の日でもあり、久保田会長は特別講演を行われた。支部月例会ではいつも久保田会長が多年発行してこられた機関誌「宇宙哲学とUFO」が今回八十号となり、この両方の發行記念祝賀パーティーが静岡支部有志会員の發案により開催された。

これに先だって、この日は静岡支部の月例会の日でもあり、久保田会長は特別講演を行われた。支部月例会ではいつも久保田会長が多年発行してこられた機関誌「宇宙哲学とUFO」が今回八十号となり、この両方の發行記念祝賀パーティーが静岡支部有志会員の發案により開催された。

これに先だって、この日は静岡支部の月例会の日でもあり、久保田会長は特別講演を行われた。支部月例会ではいつも久保田会長が多年発行してこられた機関誌「宇宙哲学とUFO」が今回八十号となり、この両方の發行記念祝賀パーティーが静岡支部有志会員の發案により開催された。

これに先だって、この日は静岡支部の月例会の日でもあり、久保田会長は特別講演を行われた。支部月例会ではいつも久保田会長が多年発行してこられた機関誌「宇宙哲学とUFO」が今回八十号となり、この両方の發行記念祝賀パーティーが静岡支部有志会員の發案により開催された。

これに先だって、この日は静岡支部の月例会の日でもあり、久保田会長は特別講演を行われた。支部月例会ではいつも久保田会長が多年発行してこられた機関誌「宇宙哲学とUFO」が今回八十号となり、この両方の發行記念祝賀パーティーが静岡支部有志会員の發案により開催された。

会長の声をテープで聞いていたが、この日は直接迫力ある生の声で聞くことが出来、出席者一同大感激であった。

講演内容も信念の重要性、円盤観測の

重要性を強調され、会員に多大な激励を与えて下さった。

月例会終了後、祝賀パーティーの会場である静岡ステーションホテル八階ホールに移り、会員により準備万端整えられた会場で、北海道、九州、四国からもお祝いに駆け付けて下さった会員のみなさんを含め全員一列に並び、久保田会長を拍手でお迎えし、高梨氏の司会で發行記念祝賀パーティーは始まった。会長から

ご挨拶を頂いた後、光井氏から花束が久保田会長の手へ、そして支部会員一同から記念のトロフィーが久保田会長に贈られ、私(野口)には楯が贈られた。

筒井氏によつて記念撮影が行われる。

その後松山支部代表の伊藤氏の音頭でカンパイの喝采があり、なごやかな歓談となり、久保田会長の多年の奉仕活動と、今回の機関誌八十号發行に対して出席者一同、限りなき祝福をおくられた。

翌日は、前日宿泊された方など八名で、清水市方面にイチゴ狩りに出掛けた。途中で高梨氏、筒井氏、松村氏、伊藤氏の四名は円盤を目撃するという出来事があつた。昨年七月の静岡での大会の翌日を思い出させてくれるよう、またまた感動の日であった。円盤も「宇宙哲学とUFO」八十号發行のお祝いに出現されたのだろう。久保田会長、多年私達会員のためにありがとうございました。

(野口敏治)

東京月例会で記念品を贈呈

去る二月五日、都内上野公園内の東京文化会館での本部月例研究会の席上にお

いて、「宇宙哲学とUFO」八十号發行と「静岡支部報」五十号發行を記念して、

東京の有志十二名より久保田会長に大トロフィー、静岡支部代表・野口敏治氏に

楯が贈られ、更に両氏に花束が贈呈され

て多年の健闘が讃えられた。以下は有志

代表の篠芳史氏の祝辞。

「今回の記念品贈呈にあたりまして一首。私はこの宇宙の中でたいへん暮晴らしいものを学んできましたが、これについて数多くのご指導を頂きました久保田

会長が機関誌「宇宙哲学とUFO」の八十号を先日出版されました。私は心から意義ある進歩を目指しておりますので、有志一同でお祝いすることとなりました。また静岡支部代表の野口氏にはこ

のたび静岡支部報の五十号を發行されま

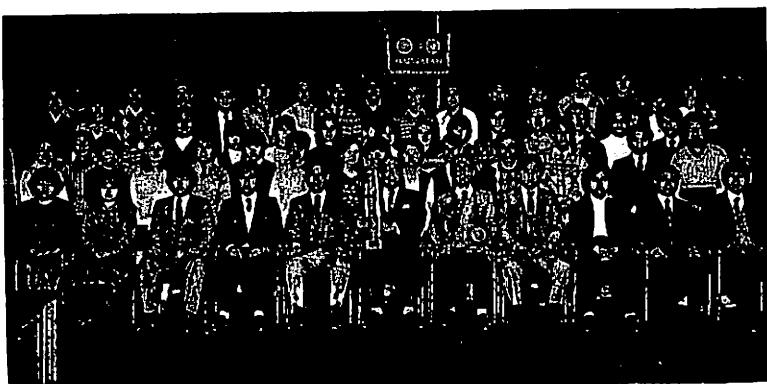
したので同時にこれも記念することにいたしました。皆様もよろしくご賛同の程

をお願い申し上げます」

久保田会長の挨拶。

「ただいまは有志の方々からいいへん立派な記念品を頂きまして有難うございました。厚く御礼を申し上げます。

昭和二十八年に私がアダムスキーと六年にアダムスキーの要請により日本GAPを創始して二十二年になります。そ



の間ささやかな活動が多数の方々に認められることとなり、現在一千名弱の会員の方々にご支援を頂き、感謝にたえません。この記念品は私個人宛のものではなく、全会員に贈られたものであると解釈して、今後いつそう努力しますのでよろしくお願い申し上げます」 (松村芳之)

有志十二名は次のとおり。遠藤昭則、大野世津子、菊池啓子、越崎裕子、小島原竹子、佐塙崇子、篠芳史、田中正、松村芳之、松本隆司、山口線、渡辺謙。

北海道年次大会食会

●二月二十六日(土)

●出席者 十七名

前日やや吹雪模様だった旭川地方はこの日、朝にはすっかり晴れ上がり、気温もマイナス十五度と冷え込みましたが、日中には道路の雪も解け出し、午後二時過ぎ旭川空港に到着された久保田会長には、寒い北国イメージもかなり柔らかだことでしょう。

今回の集まりは、会長を囲んで座談会のような和やかな雰囲気の質疑応答を行い、会員一人一人がより一層会長との一体感を深めて、今後のGAP活動への活力とするためと、設立以来三年間、旭川支部の発展に多大な貢献をされた石川代表が上京されることになり、その送別会を行うために計画したものです。

午後六時より一時間の予定で質疑応答が始まり、「UFO目撃の重要性」「自然の変動とその諸説への対応法」「ニューズレターの中のある会員による体験談」等が主な内容でした。

夕食会では始めに吉田さんが挨拶に立たれ、苦労の多かつた設立当時の思い出と激励の言葉を石川氏に送られました。そして次に石川氏が皆さんへの感謝の気持ちと今後のGAP活動への決意を語つて別れの挨拶とされました。

それからシャンパンの栓が抜かれ、会長の乾杯の音頭で送別の大宴が始まりました。雰囲気が盛り上がった頃、石川氏の



第十四回 松山支部大会

●三月二十日(日)

●出席者 四十五名

午前三時頃まで語り合いました。
久保田会長にはご多忙中、寒い北国へ足を運んで下さり大変ありがとうございました。そして旭川支部を今日まで育て来られた石川氏に心より感謝するとともに今後のご活躍をお祈りいたします。

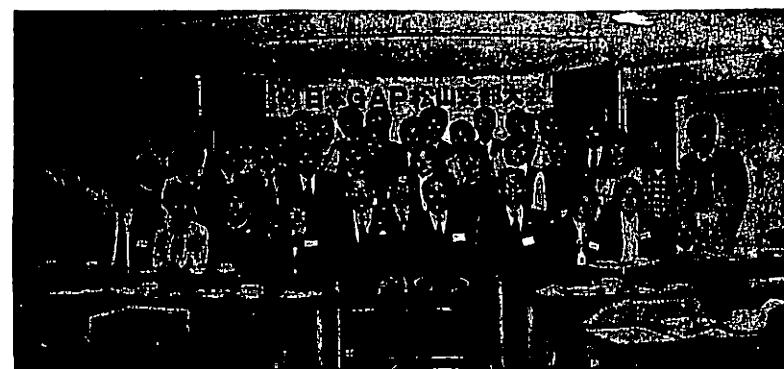
(阿部発)

大会前日の十九日の晩にまず歓迎会がホテルで開かれて二十名の方が松山城の夜景をながめながら歓談を続けた。

翌日は快晴となり、全国各地から四十名も出席されて盛況のうちに大会が開催された。佐々木朋子さんのおおらかであたたかい司会のもとに、中川敏恵さんの講演に引き続き、久保田会長が宇宙的な意識の拡大法についてきわめて重要な話をされた。その要旨は「金星人フィーリング」ともいうべきもので、肉体は地球上に住みながら意識の世界では金星にいるかのようないいとんばつを起こすと、地球上の万物も聖なるものとして光り輝いて見えるようになるというもので、ここのようなくつといかかる地球人も起こしたことのないようなフィーリングを起こす実践を先生はやっておられるという。またアダムスキーカー全集刊行をブランザーズも祝福された秘話などを語られた。

夕食会は同じホテルの別室ではなやかに開催され、三十四名が出席して旧交をあたたましたが、特に五月に結婚される山形支部代表・清水正氏と松山支部会員・中川敏恵さんの二人を祝福して花束が贈られた。更に石川公一氏の歌と石田義雄氏のフルート演奏が錦上花を添え、最後はGAP讃歌で幕をとじた。

翌日は約二十名で貸切りバスにより市



内観光に出かけたが、中川敏恵さんはバスの窓よりフライパンをさかにしたような上部にドームのある黒いUFOが雲の中に入るのを目撃したという。

この地球という低次の惑星にて、久保田会長のような偉大な指導者のもとに立派な会員の方々と一致協力してGAP活動が遂行できることは幸福の極みである。参加者各位に感謝したい。

(伊藤達夫)



中川真理子さんの記事に感動

三重県 松口幸之助

このところ温暖な気流が続いているが、先生はお元気でしょうか。

「宇宙哲学とUFO」八十号をお送り頂きました。誠にありがとうございました。丁度通しまして今回も重要な記事ばかりだと思いました。

中川真理子さんの「美しい惑星の思い出」を感じて読みました。写真と本名を載せて下さいましてうれしく思います。この記事を読みまして勇気づけられ、心がきれいに洗い流されたような気がしました。見習はなくてはと思います。

80号の表紙もすつきりした見出しがいいと思います。これのほうが迫力があつてよろしいかと思います。ア氏の未公開の写真をよろしければどしどし載せて下さい。先生のUFO観測中の写真を見て見習はなくてはと思いました。僕はなぜか月にひかれます。

す」「い中川さんの記事

東京 大野美智子

「宇宙哲学とUFO」八十号の中川真理子さんの記事はすごいですね。

私は彼女に程遠い存在だとひしひしと感じ、考えさせられました。本当に精神的な成長は山登りと同じで、下るのは簡単ですが登るのは苦労し



ます。向上への努力を怠つていて落ちていくばかりの自分を見出しています。何か時代が微妙に大きく変化されながらなんなくてはと思いま

う。GAPの会員である以上、彼女の記事に刺激されがんばらなくてはと思いま

す。

東京月例会はこのところずっと欠席しておきましたが、また出席させていただこうと思つております。目的を同じくする者同士の会合の活動にふれて私の心も共振させたいのです。私はレベルが低いので共振が起これば幸いですが――。

わが円盤目撃史

大分県 十養 順

相変わらず「ぢ」主として室内盤居中、八十号を贈つて頂き感謝です。庄巻は中川真理子さんの手記、二

ういうすばらしい人が大兄にとってのヒミコ女王としてすくすく成長さ二人で「こんな高いところからでも

「人」だとわかるんだね」とか「あ

れが首都高速か。あれじや交通事故も起るだろうね。地球の乗物はどうしたって重力に引っぱられて地面に押さえつけられているんだからね」とかいう会話をかわしながら「今日あたり円盤でも飛んでないかな?」

と、なにげなく池袋駅の近くの西武デパートのあたりに目をやっていた時です。

始まり、A.Z期は友人(娘と女中)がしばしば池尻町への往来を実見し、

P会員)が「あれ、面白い物が飛んでる。あれ、なんだろ。白いようなもの見ええる。ほら、あそこ!」と下を指します。私も西武デパートのあたりへ視線を移したら、ナルホ

した。次は大分市の柞原八幡宮そばの自宅で私の男の子の下(当時小一)がスプーン曲げをした時期(今から九年前)よく飛来しました。その後は絶えてありません(みすてられた)のかも。

今、「シエヘラザーデ」を聴いています。何か時代が微妙に大きく変わりつあることを切々と感じます。

「燃えつき症候群」を見覚したら又拝顔したいものです。

白い円盤を見た!

東京 菊藤泰文

去る建国記念日の二月十一日、妻

と二人で池袋で面白いモノを見ました。この日午後四時頃、妻と私はラーメンを食べたあと、フットなどにげなく池袋へ来たのだからか有名なサンシャインビルへ登つてみようと思つて六十階の展望台までのぼり、小さく見える人やクルマを見ながら二人で「こんな高いところからでも

「人」だとわかるんだね」とか「あ

れが首都高速か。あれじや交通事故も起るだろうね。地球の乗物はどう

したって重力に引っぱられて地面に押さえつけられているんだからね」とかいう会話をかわしながら「今日あたり円盤でも飛んでないかな?」

と、なにげなく池袋駅の近くの西武

デパートのあたりに目をやっていた時です。

そしたら妻の津多子(夫婦共GA

時速三百キロぐらいは出ていたと推測されます。いろいろ考えてみると

飛んで行きましたから、それを上から見おろしていると、必ずしも直線

物との距離をほぼ一定に保ちながら

飛んで行きましたから、それを見

て上から下を見ていることが多い

ので、よくわかりますが、あれは絶対に地球の飛行機やヘリコプター

ではありません。ビルの六十階から丁度見おろす恰好になりました。

その飛ぶ様子を約二十秒ぐらい

時間は午後四時二十八分から約三十

秒です。見ていますから、とても面白い飛び方をするんです。あのあたりも今頃は高いビルが建ちはじめ、十四~十五階のビルが多いんです。そのようなビルの大体倍ぐらいの高さ、そうですね、地上三十階のビルの高さぐらいの一定の高度を保しながら、さも地上を偵察しているかのように見えます。それが首都高速か。あれじや交通事故も起るだろうね。地球の乗物はどう

か。さも地上を偵察しているかのように見えます。宇宙には何もない」という宇宙論が強調されているかのように見えました。が、先生の講演のテーマを注意深く検討してみると「宇宙は無である」というよりはむしろ次の点に力点があるかもしれません。つまり、おかれていることに気がつきます。

「目に触れるあらゆる物すべてが愛である。私たちは愛に包まれていて、

目につく限りすべての物を愛する。

そしてケタはずれに雄大な愛のフ

ーリングを起こすことが最重要。人間ばかりを重視しすぎるために、周囲の万物と自分とを切り離して

いることは自分に一定の限界を設けて

いることになる」

以上の事柄の意味するところを私なりに考えてみますと、スペース・

プログラムというのは「この世界は、

この宇宙は無秩序な混沌としたデータ

ラメな世界ではなくて、我々は秩序正しい世界に生きていているのだ」とい

うこと気に気づかせようとするプログ

ラムではないでしょうか?

結局、スペース・プラザーズの意

思は、「宇宙には恐怖すべきものは

← → <予告> 昭和58年度地方支部大会(その2)

| | 山形 仙台 合同支部大会 | 札幌 旭川 合同支部大会 | 大阪 支部 大会 | 秋田 支部 大会 |
|---------------|--|--|--|---|
| 日 時 | 5月22日(日) 午前10:30→午後 5:00 | 6月26日(日) 午後 1:00→ 5:00 | 7月17日(日) 午前10:00→ 5:00 | 8月28日(日) 午後 1:00→ 6:00 |
| 会 場 | 「霞陽(おきたま)総合文化センター」 山形県米沢市金地 ☎ (0238) 21-6111 駅から徒歩20分。バスは市役所行きに乗り、市役所前で下車。 | 「北農健保会館」 3階「芭蕉」の間 札幌市中央区北4条西7丁目 ☎ (011) 261-3271 国鉄札幌駅より西へ徒歩3分 | 「吹田(すいた)市民会館」 (部屋については当日入口に掲示) 大阪府吹田市吉川町4番1号 ☎ (06) 388-7351 国鉄または阪急電車吹田駅下車アサヒビル工場西側、徒歩10分。 | 「網高(いやたか)会館」4階 広間 秋田市中通6丁目1-1 ☎ (0188) 35-1188 秋田駅から市民市場の方向へ徒歩10分。 |
| 会 費 | (希望者のみ全員記念) ¥2000 写真・送料共 ¥ 700 グランドキャビネ料) | ¥2000 (写真の件は左と同じ) | ¥2000 (写真の件は左と同じ) | ¥2000 (写真の件は左と同じ) |
| プロ グラ ム | 司会 田中義則 10:30 支部代表挨拶 清水正、立原弘可 10:45 記録映画「エジプト・ヨーロッパ宇宙考古学の旅」 1:00 会員講演 本山恒明・伊藤睦史 2:00 講演「宇宙の法則の生かし方」久保田八郎 3:40 休憩・記念撮影 4:00 質疑応答 5:00 閉会 | 司会 小野陽子 1:00 支部代表挨拶 伊藤重信・阿部 兼 1:15 記録映画「エジプト・ヨーロッパ宇宙考古学の旅」 2:30 休憩・記念撮影 3:00 講演「GAP活動の意義」久保田八郎 4:00 全員自己紹介・質疑応答 5:00 閉会 | 司会 長浜富春 10:00 支部代表挨拶 平塚和義 10:10 記録映画「エジプト・ヨーロッパ宇宙考古学の旅」 12:00 休憩 1:00 会員講演・田中邦安 1:45 講演「宇宙の法則とは何か」久保田八郎 3:00 休憩・記念撮影 3:30 全員自己紹介・質疑応答 5:00 閉会 | 司会 伊藤正治 1:00 支部代表挨拶 佐藤春雄 1:10 会員講演・佐藤春雄 1:50 講演「UFO問題と宇宙哲学」久保田八郎 2:50 休憩・記念撮影 3:20 記録映画「エジプト・ヨーロッパ宇宙考古学の旅」 4:30 全員自己紹介・質疑応答 6:00 閉会 |
| 夕食会 | 大会終了後 6:00→ 8:00まで ホテルサンルート米沢で希望者による夕食会を開催。 会費 ¥5000 (清水正氏と中川敏恵さんの結婚披露をかねて行います) | 大会終了後 6:00→ 8:00まで ホテル丸窓で希望者による夕食会を開催(立食形式) 会費 ¥4000 | 大会終了後 6:30→ 8:30まで 別会場で希望者のみで夕食会を開催。 会費 ¥4000 | 大会終了後 6:10→ 9:00まで 同会館内の別会場で希望者による夕食会を開催。 会費 ¥4500 |
| 宿 舎 | 「ホテル・サンルート米沢」をお世話します。 シングル 1泊¥5000程度 | 札幌駅南口前「札幌ワシントンホテル」をお世話します。 シングル 1泊¥4300 ツイン 1泊¥7100より | 「ホテル・コンソルト」(地下鉄御堂筋線西中島南方駅前)をお世話します。 シングル 1泊¥4500(税・サ込) ツイン 1泊¥8400(+) | 「秋田パークホテル」をお世話します。 シングル 1泊¥4000 ツイン 1泊¥7000 |
| 申 込 | 夕食会・宿舎希望の方は宿泊日と共にその旨を記してハガキで5月15日までに下記へお申込下さい。 〒992 山形県米沢市松が岬2丁目4-31 清水 正 ☎ (0238) 21-5441 | 夕食会・市内観光・宿泊希望の方はハガキにその旨を記して5月末までに下記へお申込下さい。 〒065 札幌市東区北18条東6丁目、坂口マンション 伊藤重信 ☎ (011) 742-0192 | 夕食会・18日の見学・宿泊希望の方はハガキにその旨を記して7月10日までに下記へお申込下さい。 〒661 兵庫県尼崎市水堂町3丁目16-8 平塚和義 ☎ (06) 436-3478 | 夕食会・市内観光・宿舎希望の方はハガキにその旨を記して7月末までに下記へお申込下さい。 〒019-24 秋田県仙北郡協和町境字野田167-19 佐藤春雄 ☎ (0188) 92-3284 |
| 備 考 | 大会翌日は希望者だけで天元台(スキー場で有名)へマイクロバスでドライブ。 ※5月は支部大会のため両支部共月例会は中止。 | 大会翌日は希望者だけで郊外へ観光を予定。 ※6月は支部大会のために札幌支部の月例会は中止。 旭川支部は6月の第3日曜日に月例会を開催。詳細は本誌40頁を参照。 | 大会翌日は希望者だけで吹田市万博公園内にある国立民族学博物館を見学の予定。 ※7月は支部大会のために月例会は中止。 | 大会前日は秋田パークホテルで希望者だけで歓迎会を開催。大会翌日は希望者だけで仁別国民の森へドライブの予定。 ※8月は支部大会のために月例会は中止。 |

* 上記の他に10月9日(連休初日)には東京総会、11月20日(日)に熊本支部大会が予定されています。

詳細は次号に掲載。

▶日本平のJFO?
昨年(五十七年)七月五日、静岡市の東海地区大会の翌日、十数名で日本平へ登って写真を撮影したところ奇妙な物体が写っていた(矢印)。JFOか。

何もない。そこには楽しさ、喜び、幸福しかないんだ」ということに気づかせようとするプログラムではないでしょうか?

また「ラザーズはどんな人に会つても微笑みの表情を浮かべて接する」というのは、宇宙の本質を表現しているのではないのでしょうか?

秩序と調和、そして楽しさ、喜び、幸福という宇宙の本質に照らし合わせてみると、ウォルト・ディズニーが、「あるような楽しい施設を作ったのもうなずけます」。

さらにニースレターのバックナンバーに连载された記事「進歩した思索家のために」の七頁第四段に記

述されている次の事柄も宇宙の本質に関連があるのでないでしょうか。
「私たちは外側にある天國をつかみ取る必要はありません。それはすでにここにあるのです。私たちはそれに気づく必要があります。形があるように見える物は、一時的な仮の姿にすぎないことに気付く必要があるのです。形ある物は去来しますが、その物を生み出す力は永遠なるものです」

以上の事柄について久保田先生の考え方をお聞かせください。

●おめでた

大阪支部の会員同士である北口良次氏と渡辺貴子さんは去る二月十四日でたく結婚された。ご多幸を祈る。

今年は日本GAP男女会会員間の結婚ラッシュ。めでたし。

■まず四月二十四日に宮城県柴田町の安藤澄雄氏が北海道帯広市の会員大橋博子さんとゴールインの予定。式は挙げないが、同日開催の仙台支部例会終了後、五時より別会場で支部により二人を祝福する披露パーティを開くとの由。詳細は仙台支部代表の笠原氏宛に照会のこと。

○二二二一九五〇七二五。祝電は市本船追字内沼田九六一一、安藤澄雄氏宛。

■続いて四月三十日には神奈川県在住の神奈川支部会員・関高明氏が郷里の四国で宮崎敬子さんと結婚の予定。花嫁は非会員なるもいづれ会員にしてみせるという。祝電は左記へ。

〒六三番地、ニューグランドホテル気付
ンバーに连载された記事「進歩した思索家のために」の七頁第四段に記

「エルサレム宇宙考古学の旅」第1回説明会

日本GAP企画第5回の今夏実施海外研修旅行のための第1回説明会を下記の場所で行いますので、参加申込者はもちろん目下考慮中の方もぜひご出席下さい。重要なインフォメーションをお伝えします。(会費無料、筆記具持参)

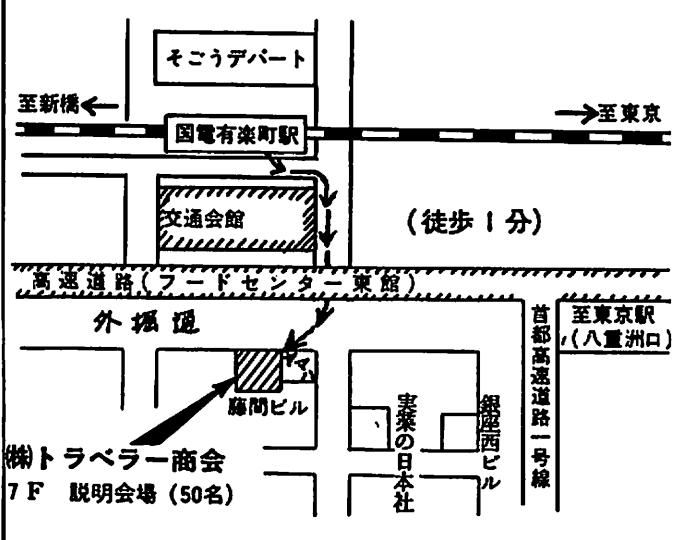
日時 5月29日(日)午後1時より5時まで。

会場 トライベラーホテル・7階説明会場

〒104 東京都中央区銀座2丁目2番19号 藤間ビル

(03) 563-5461~2

※国電「有楽町駅」の「都庁口」に出て、交通会館の左側面ぞいの道路を100mあまり行くと、広い外堀通の角に出る。道路をへだてて藤間ビルがすぐ前に見える。人口のエレベーターで7階へ。



だれにもわかる「生命の科学」1982年版 第2部刊行中!

1982年度東京例会における久保田会長による「生命の科学」解説講義の講義録。深い理解を得るために必読の名著です。

B6版 活字タイプオフセット印刷
4~6月分 頒価500円 送料170円

申込先 〒980 仙台市五輪2丁目9-8(2F南)
☎ (0222) 91-7978
安藤澄雄 振替仙台7-30019
※第1部(1~3月分)在庫有り700 〒170

第1回配本
5月中旬発売

「ジョージ・アダムスキー全集」刊行!

久保田八郎訳 全7巻 徹底的全面改訳

第1巻 宇宙からの訪問者

B6判／約340頁／本文上質紙／上製本箱入保存版／¥2500 〒250

偉大な進化をとげた惑星の人々とコンタクトしたアダムスキーが、驚嘆すべき異星の科学と超高次な生き方を詳細に伝えた希有の書。アダムスキー研究家でUFO研究界の第一人者・久保田八郎氏により最終的に徹底的な改訳が施され、箱入豪華保存版として、ここにふたたび脚光をあびることになりました! 超絶した別惑星の大文明の真相を洩らす本書こそ混乱と分裂に満ちた地球に一大光明をもたらすでしょう。GAP全会員は本書を書架に飾って限りなく宇宙的感覚を高めて下さい。

アダムスキー全集 第1期脚注付

第1巻 宇宙からの訪問者 昭和58年5月中旬発行
¥2500 〒250

第2巻 UFO問題の真相 昭和58年7月中旬発行
¥2500 〒250

第3巻 UFOとアダムスキー 昭和58年8月中旬発行
¥2500 〒250

第1期分[全3巻]予約受付中

予約特価6000円(2割引) 送料¥400

申込締切=昭和58年6月15日 第1期分3冊をまとめて
注文された方に限り予約特価で発送します。お早目に直接小社宛ご
注文下さい。申込方法は郵便振替または現金書留でお願いいたします。

アダムスキー全集 第2期脚注付

第4巻 宇宙哲学

第5巻 テレパシー開発法

第6巻 生命の科学

第7巻 アダムスキー論説集 日本GAP機関誌に掲載された
のみで、まだ単行本化されていない論文集

 文久書林 〒162 東京都新宿区榎町33
TEL 03(267)6920 振替東京4-2521 

訪問地紹介

■エルサレム イスラエルの首都。キリスト教、ユダヤ教、イスラム教の聖都として世界に名高い都市です。人口は約30万。テルアビブから約70km、市内は城壁に囲まれた1km四方の旧市街と、西北に発展したモダンな新市街から成っています。大半カナン人の土地でしたがメソポタミア方面からユダヤ人が侵入し、前1000年頃ダビデ王が都にして、その子ソロモン王は市内のモリア山に壮麗な大神殿を建立して栄華の極に達しました。その後、586年バビロニアのネブカドネザル大王がエルサレムを攻略して神殿は灰燼に帰したのですが、前63年にローマ帝国の属領となり、ときのヘロデ王が神殿を改築しました。イエスが出現したのはこの王の治世の頃です。以来2000年間、市内は多数の戦乱と闘争の場と化して変貌しましたが、イエス関係の遺跡としてはヒア・ドローサ（十字架の道）、聖墓教会（ゴルゴタの磔刑場所）、オリーブ山、ゲッセマネ庭園、シオン山、最後の晩餐の部屋、その他多くの場所が残っています。エルサレム到着後、まっ先に十字架の道（イエスが十字架の横木をかつがされて刑場まで歩いた道）を私たちも歩きます。

■ヒア・ドローサ（嘆きの道。十字架の道ともいう） イエスの死後、母アリアが毎日城外の村からキドロンの谷を上って、イエスがゴルゴタの刑場までを歩いた道をたどりながら、受難の場所ごとに立ち止まったという位置がステーション（留）として明示されており、その道のりを意味します。エルサレム最大のハイライトです。

第1ステーション 現在はフランススコ会とシオン修道女会となっている位置で、ここでイエスはローマ総督ピラトの殺を受けたムチで打たれた。ピラトが死刑を宣した場所。

第2ステーション イエスが紫色の衣を着せられ、イバラの冠をかぶせられてムチで打たれた場所で、ムチ打ちの教会という建物で覆われておらず、その中にわずかの散石が残っているが、これこそイエスがゴルゴタまで歩いた道で残存している唯一のオリジナルの部分といわれている。

第3ステーション イエスが十字架の横木をかついで歩きながら最初に倒れた場所。

第4ステーション 母アリアが受難のイエスに会って激励した場所。

第5ステーション ローマ軍の兵隊がクレネ人のシモンという男をつかまえて、弱り果てていたイエスのかわりに木をかつがせた場所。

第6ステーション イエスを慕う女性ペロニカが、血と汗をふくようにとイエスにスカーフを差し出した場所。現在は聖ペロニカ教会となっている。

第7ステーション イエスが2度目に倒れた場所。

第8ステーション イエスが、ついで来た人々を振り返り、エルサレムの巡命を予言した場所。ここでイエスは心配する婦人たちを逆に慰めた。

第9ステーション イエスが3度目に倒れた場所。

第10ステーション ここからは聖墓教会の内部となる。イエスが衣服をはぎとられた場所。

第11ステーション イエスが十字架にかけられた場所。

第12ステーション イエス終焉の場所。息絶えたときに地獄でできたという白い岩の裂け目が2つの祭壇の下にある。

第13ステーション 聖墓教会の入口近くのホールに方形の石板があり、この上で十字架からおろされたイエスの体に香油を塗ったという。

第14ステーション 入口の左に祭壇があり、その下に小さな石室のイエスの墓がある。左手の白い石の台にイエスの体が安置された。

■聖墓教会 四世紀に初めてキリスト教を公認したローマのコンスタンチヌス帝の母ヘレナは熱心なキリスト教徒でしたが、325年にカルワリオの丘（ゴルゴタの丘）を訪れて十字架を発見し、この地に記念聖堂を建立したのがはじまりです。その後度数の戦乱で破壊され、現在の聖墓教会は十字架が建てたのを1808年に改築したもので、上記の第10~14ステーションは聖堂内に含まれています。ここは要するにイエスの磔刑の場所です。

■シオン山 旧市街を閉む壁の間にある小高い丘。現在

は頂上に僧院があり、ダビデ王が居城とした場所で、王の墓もあります。昔ここにあった家でイエスと12使徒が最後の晩餐を行いましたが、その部屋はいまも保存されており、これも見学します。ユダヤ人の国家建設を目指すシオニズムという哲學の語源にもなった丘です。

■オリーブ山 エルサレムの東のキドロンの谷を隔てたゆるやかな丘陵地帯で、金山オリーブの木で覆われています。イエスが弟子たちに説教をした場所として名高く、彼の最後の日に関係のある多くの教会があります。

■ゲッセマネ庭園 イエスが最後の晩餐のあと弟子たちと共に来て、最後の祈りを行いながら夜をすごした所で静かな小さな庭です。隣の苦惱の教会の祭壇前にある岩の上にイエスが腰をおろしていたといわれています。

■モリア山 旧市街の中に高くそびえる山で、テンブル地区とも呼ばれます。3000年前にソロモンがここに巨大な神殿を建てましたが、のちにバビロニアのネブカドネザルが破壊されました。現在はイスラム教の岩のドームとアクサ・モスクが建てられ、メッカ、メジダに次ぐ聖地となっています。ここでマホメットが升天したという伝説が残っています。

■嘆きの壁 テンブル地区の西南にあるユダヤ人の聖地ヘロデ王の神殿の外壁であり、岩のドームを囲む壁の一部でもあります。神殿の破壊やバビロン捕囚などを悲しんだ古代のユダヤ人がこの壁に手を当てて泣いたといわれています。

■イスラエル博物館 ユダヤ人と中東の宗教藝術の粹を集めたペサレル博物館、考古学・聖書博物館、古文書を集めた書物殿、高名な日系米人彫刻家イサム・ノグチ氏設計の彫刻庭園などから成る世界的な大博物館で、圧巻は掛物殿の死海写本です。

■ベツレヘム イエス生誕地としてあまりにも有名なこの町はエルサレムの南約8kmの所にあり、立派なドライアイコースで結ばれています。現在は誕生地の洞窟の上に大型堂が建立され、内部の地下には長さ12.3m、幅3.13mの長方形の洞窟が保存されています。

■死海 海ではなく、長さ67km、幅17kmの巨大な湖で、水面は海拔下392mもあるため、上流から運ばれる塩化物が水の24~26%を占めて塩分が異常に多く、魚類は生存しないことから死海と名付けられました。ここで海水浴を行います。人間は絶対に沈みません。

■クムラン洞窟 死海の北、西側の湖畔約10kmの所にクムランの遺跡があります。1947年、2人のベドウィン人がこの洞窟内で亞麻布に包まれた羊皮紙の古文書の入った壺を発見して世界的に有名になりました。この遺跡はイエス在世の当時、エッセ派（エッセン同胞団）が集団生活と宇宙の法則探求の場所としたところで、イエスも一時期この集団に関係したという説があります。

■ガリラヤ湖 イスラエルの北方に位置するこの大湖はイエスにゆかりのある場所としてよく知られています。彼はこの湖畔で多くの快適な日を送り、かずかずの奇跡を行い、群衆に宇宙の法則を伝えました。また何度も湖を渡り、弟子たちと共に家族的な美しい生活をすごしました。あるときイエスはこの湖水を歩いて渡り、弟子たちを驚かせています。私たちは水上を歩くことはできないので遊覧船で周遊します。

■ナザレ ガリラヤ湖の西方約25kmの山の斜面に存在するこの町には現在アラビア人が住んでいますが、イエスの時代はユダヤ人の町でした。イエスはここで幼少年期を過ごしています。父ヨセフの家の跡に聖堂が建てられており、ここから600mほどの位置に聖母マリアの泉が残っています。

以上の他に多数の遺跡を見学の予定です。

「ニュージーランド・オーストラリア大自然の旅」を変更

第5回日本GAP海外研修旅行

エルサレム宇宙考古学の旅

宇宙の法則を伝えた偉大な指導者イエスの足跡を訪ねて

●旅行期間 昭和58年8月13日より21日まで(9日間)

●参加費用 ¥498,000 (分割払い可・月々約¥22,700×24回)
(変動があるかもしれませんのでお含みおきください)

エルサレム！ イエスの宇宙的なティーチングと偉大な事跡を知る私たちにとって、これほどに魅力のある場所が世界のどこにあるでしょうか。一般に知られていないもう一人のイエスは、金星から地球に転生してパレスティナで宇宙の法則を伝えたあと、エルサレム郊外のゴルゴタの丘で磔刑に処せられてから、金星の円盤の放射線により蘇生してアメリカのデザートセンターに運ばれ、その地のインディアンの部族の指導者として長い生涯をすごした方です。

2000年後の1952年、イエスは金星人オーソンとして、かつての12使徒の1人であったヨハネの転生した姿であるジョージ・アダムスキーとデザートセンターで会見しました。この北大なる宇宙的ドラマの根源地は2000年前のパレスティナ、その中心はエルサレムです。この都市の内外はイエスと使徒たちの活動の本拠であり、かず多くの遺跡が残っています。

特にイエスが十字架の横木を背負わされて歩きながら途中3度倒れたビア・ドロローサ（歎きの道。十字架の道ともいう）と最期をとげたゴルゴタの丘（現在は聖墓教会）こそは私たちにとって地球最大の聖地であり、GAP会員必見の場所です。倒れたイエスを母マリアが抱き起こして激励した地点や、イエスを思慕していた女性ペロニカが師の血と汗をふくためにスカーフを差し出した場所などはランドマークにより示されています。

エルサレムは3000年前にダビデ王とその子ソロモン王により繁栄した史跡に満ちた都市ですが、私たちはここ以外にもイエスの誕生地ベツレヘムや少年時代をすごしたナザレなどを訪問し、イエスが多く奇跡を行ったガリラヤ地方の見学と風光明媚なガリラヤ湖の遊覧船による周遊も行います。死海での海水浴も一興です。地球上に生きるため宇宙の法則を探求する日本GAP会員の皆さん、金星人イエスの足跡訪問を今生最大のハイライトとして実現させようではありませんか。久保田八郎とペテラン添乗員・田中正が徹底的に検討して企画したGAPだけのこの手作りの研修旅行にぜひご参加ください。次元の高い多数の会員の方々の参加がすでに内定しています。旅行中は久保田と田中が親身のお世話をし、現地では優秀な日本人ガイドが案内しますし、参加申込者には説明会で詳細なインフォメーションをお伝えします。

イスラエル国内は日本と同じほどに治安が良好で、年間120万人の外国人観光客が訪れてています。毎日3食付きで安心して素晴らしい旅が楽しめます。GAP独特の調和と友愛に満ちた感動の日々を聖地ですごすではありませんか。

※ハガキで案内書を日本GAP宛お申し込み下さい。

日本GAP会長 団長 久保田八郎



日本GAP全国月例研究会案内

| 支部名 | 日 時 | 会 場 | 会 費 | 携 行 品 ・ 行 事 |
|-----------|---|--|--------|---|
| 東京 本部 | 毎月第1土曜日 午後2:00→6:30 | 上野公園内「東京文化会館」4階会議室。 ☎03-828-2111。国電「上野駅」の「公園口」下車。改札口の真向かいスグ ※7月と8月のみは皇居北の丸公園内の 「科学技術館」6F会議室に変更。両 月とも第1土曜日。 | ¥ 300 | 2:00→3:00会員による体験講演。 3:00→4:30久保田会長の「宇宙哲学」 講義と近況報告、テレパシー練習、休憩。 4:30→6:30自己紹介、意見発表、質疑応答。 |
| 大阪 支部 | 毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※7月は支部大会のため月例会は 中止。 | 大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会 館」☎(388) 7351。 国鉄または阪急電車「吹田駅」下車。連 絡先=平塚和義 ☎06-436-3478 | ¥ 300 | テキストとして「宇宙哲学」「生命の科学」(文久 書林刊)を持参。東京例会における久保田会長の 講演テープを公開。テレパシー練習・研究発表・ 座談会 |
| 新潟 支部 | 毎月第4日曜日 午後1:00→5:00 | 新潟駅前「青年の家」☎ 0252-44-6766 連絡先=足立直宏 ☎ 0252-62-0968 | ¥ 200 | テキストとして「宇宙哲学」「生命の科学」を持 参。東京本部例会における久保田会長の宇宙哲学 講義録音テープを公開。テレパシー練習、座談会。 |
| 熊本 支部 | 毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 | 熊本市二本木3-12-45 常通寺 連絡先=津野田耕勝 ☎0963-52-3381 | ¥ 200 | テキストとして「生命の科学」「宇宙哲学」(文 久書林)を持参。久保田会長の東京例会における 「宇宙哲学」講義録音テープ公開。座談と研究 発表。テレパシー練習。 |
| 名古屋 支部 | 毎月第2日曜日 午後1:00→4:30 | 名古屋市中区古沢町7-1 「名古屋市民 会館」特別会議室。☎ (052) 331-2141 国鉄・名鉄・地下鉄「金山駅」下車。 徒歩5分。 連絡先=林 国宣 ☎ 0586-45-6468 武川充弘 ☎ 052-622-7339 | ¥ 300 | テキストとして「生命の科学」「宇宙哲学」を持 参。久保田会長の講演録音テープ公開。研究発表 テレパシー練習、座談会。 |
| 仙台 支部 | 毎月第4日曜日 午後1:10→ 4:20 ※5月は支部大会のため 月例会は中止。 | 仙台市「市民会館」会議室(西公園内) 連絡先=笠原弘可 ☎0222-95-0725 | ¥ 200 | 東京本部月例会における久保田会長の講義録音テ ープ公開。テレパシー練習、座談会。 |
| 山形 支部 | 毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※5月は支部大会のため月例会は 中止。 | 山形市小白川町「社会福祉センター」 山形駅よりバスで貯金局前下車・徒歩3 分。☎ 0236-42-5181 連絡先=清水 正 ☎ 0238-21-5441 | ¥ 200 | テキストとして「宇宙哲学」「生命の科学」を持 参。東京本部月例会における久保田会長の講演録 音テープ公開、テレパシー練習、研究発表、座談 会。 |
| 札幌 支部 | 毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※6月は支部大会のため月例会は 中止。 | 中央区北一条西一丁目「札幌市民会館」 会議室。☎011-241-9171 連絡先=伊 藤重信 ☎011-742-0192 | ¥ 500 | テキストとして「宇宙哲学」「生命の科学」を持 参。久保田会長の講演録音テープを公開、テレパ シー練習、座談会。 |
| 静岡 支部 | 毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※5月は支部大会のため月例会は 中止。 | ブライダルビル8階(静岡駅北口す ぐ) 静岡市御幸町9-1 連絡先=野口敏治 ☎0542-86-7729 | ¥ 200 | テキストとして「宇宙哲学」「生命の科学」を持 参。東京本部例会における久保田会長の講演録音 テープ公開。テレパシー練習、研究発表。 |
| 旭川 支部 | 毎月第4日曜日 午後1:00→4:00 ※6月は支部大会のため第3日曜 日に変更。 | 旭川市5条通10丁目「大雷鳴人会館」3F ☎ 0166-23-6588 連絡先=阿部 寛 ☎ 01658-2-1585 | ¥ 1000 | 東京月例会における久保田会長の講演録音テープ を公開。研究発表。アダムスキーオ著「宇宙哲学」 「生命の科学」を持参。質疑応答、テレパシー練 習、研究発表。 |
| 松山 支部 | 毎月第4日曜日 午後1:00→4:30 ※5月29日は広島市平和公園隣の中国新聞社、7月24日は広島駅構内 ステーションホテル会議室に変更。 | 松山市民会館会議室 連絡先=伊藤達夫 ☎ 0898-22-3060 ※5月29日は広島市平和公園隣の中国新聞社、7月24日は広島駅構内 ステーションホテル会議室に変更。 | ¥ 200 | テキストとして「生命の科学」「宇宙哲学」を持 参。東京月例会における久保田会長の講義録音テ ープ公開。質疑応答、座談会。 |
| 群馬 支部 | 毎月第2日曜日 午後2:00→6:00 | 群馬県太田市「太田市民会館」 第6会議室。 連絡先=服部 久 ☎ 0276-63-2163・2771 | ¥ 200 | 東京本部月例会における久保田会長の講義録音テ ープ公開、座談会等。 |
| 青森 支部 | 毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 | 青森市松原「青森市民文化センター」 教養室(2) ☎ 0177-34-0163 連絡先=中村 豊 ☎ 01756-3-3386 | | テキストとして「生命の科学」「宇宙哲学」を持 参。東京月例会における久保田会長の講演録音テープ を公開。テレパシー練習、研究発表、座談会。 |
| 沖縄 支部 | 毎月第3日曜日 午後1:00→6:00 | 沖縄県宜野湾市真栄原80 下地算数教室 ☎09889-7-6478 連絡先=新里義雄 〒901-22 宜野湾市 野嵩1547 マキシアパート | ¥ 500 | テキストとして「宇宙哲学」久保田先生による宇 宙哲学解説テープ公開。質疑応答。想観察とテ レパシーの研究報告。自己紹介。座談会等。 |
| 秋山 支部 | 毎月第2日曜日 午後1:00→5:00 ※8月は支部大会のため月例会は 中止。 | 秋田市八橋運動公園1-2 「中央公民館」 趣味の間。☎ 0188-24-5377 連絡先=佐藤春雄 ☎ 0188-92-3284 | ¥ 200 | テキストとして「生命の科学」「宇宙哲学」を持 参。東京本部月例会における久保田会長の講義録 音テープ公開。テレパシー練習、座談会。 |
| 神奈川 支部 | 毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※8月のみ第1日曜日(8月7日) に変更し、第1研修室より会議室 に変更。 | 神奈川県川崎市川崎区富士見2-5-2 「川崎市立労働会館」第1研修室 ☎ 044-222-4416。国鉄京浜急行「川崎 駅」下車。市バス・ふ頭線・労働会館前 連絡先=千田光明 ☎ 0468-36-7198 | ¥ 400 | テキストとして「宇宙哲学」を持参。東京月例会 における久保田会長の講義録音テープ公開。研究 発表、座談会等。 |

★本誌バックナンバー(旧号)★

わが国でアダムスキー問題を正しく伝える唯一の文献である本誌は後世に残る貴重な資料となるものです。ぜひおそれ下さい。

No.77 主要記事「金星には偉大な文明がある!」／「宇宙と愛について」(1)久保田八郎編／「反磁場による超推進法」W.ラボート／「さらば空飛ぶ円盤」(5)第7章 疑う人に対する回答／第8章 デマとデマ流し屋／その他。

No.78 主要記事「火星に生命が存在」／「私は異星人から何を学んだか」G.アダムスキー／札幌市でアダムスキー型円盤目撃される／アダムスキー型円盤、旭川に出現／沖縄支部大会の日に葉巻型母船現る／「宇宙と愛について(2)」／「波よ静まれ、そして風も」久保田八郎

No.79 主要記事「イエスの聖骸布の謎」久保田八郎／「聖書とUFO」G.アダムスキー／「宇宙と愛について」(3)／「円盤につきまとわれた日」／「謎の巨石と太陽円盤の國へ」その他有益な記事を満載。

No.80 主要記事「ファティマの大UFO事件」久保田八郎／「美しき惑星の思い出」中川真理子／「GAPの意義・アダムスキーの著書」／「聖書とUFO(2)」G.アダムスキー／82年度日本GAP総会賛歌・講演録 その他。

各 ¥700。*バックナンバーに限り送料は不要

「宇宙哲学」解説講義録音テープ

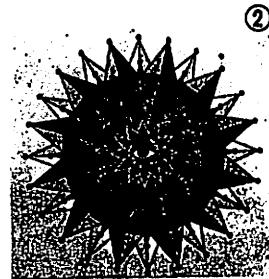
昭和58年度東京例研究会において1月より毎月1～2章ずつ久保田会長が解説される録音テープです。アダムスキー哲学の理解を深める上での重要な資料。会長の平易な説明と深遠な内容をぜひお聴き下さい。近況報告も含まれています。各支部必須のテープ。

テープ1本(90分) ¥1000 〒200

*このテープの注文に限り××月分と記して必ず下記へご注文下さい(58年1月より毎月録音・第1章より在庫)。

〒430 静岡県浜松市守島町221、小島國弘

TEL.0534-52-8502/振替名古屋7-51065



①オーソン肖像写真 ②シンボルマーク

①1952年11月20日、カリフォルニアの砂漠でアダムスキーが劇的な最初のコンタクトをした金星人は「宇宙からの訪問者」第2部でオーソンという名で出てくるが、これをアシの記録やアリス・ウェルズのスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ヘッツが描いた名画の写真。(キャビネ判)(カラー写真)

②この金星のシンボルマークの中央にある眼は“すべてを見透す眼”で、宇宙の意識をあらわし、周囲の四層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。(サービス判)(カラー)

上記2点共、重要な資料となるものです。他所では入手できません。ご注文は必ず日本GAP宛直接に振替でどうぞ。

①¥500 〒120 ②¥200 〒60—括注文の場合〒120

③想念観察手帖

アダムスキーの宇宙哲学にもとづいて自己の想念印象を観察し、宇宙的想念と非宇宙的想念とに分類して記入する。宇宙的テレパシーで人間になるための必携品。1冊で1ヶ月分の記入が可能。¥500 〒120

④セナーカード

アメリカで開発されて世界的に広まったテレパシー練習用カード。5種1組のカードを1箱に5組、計25枚収納。美麗箱入り。¥500 〒120

日本GAP

会員募集

日本GAPはUFOの研究会として、昭和57年1月に創立された日本最大のUFO専門研究会です。多くの会員と共に宇宙的大観を追求する会員を目指します。会員登録料を支払うことで日本GAPに入会できます。

★「月はUFOの基地?」はまだばう大な資料があるのですが紙面の都合により簡略にしました。しかしこの記事はアダムスキーの体験記が真実であったことを立証する迫力ある内容です。「私は異星人に守られている」ともごく興味深い実話です。これも内容が真実そのものであることは編者が太鼓判を押します。

★「美しき惑星の思い出」は本号で完結しました。筑者の高次元な人柄をこれで充分に理解されたと思いません。七月には結婚される内容で掲載を中止しました。ご了承下さい。

★先号創刊後記で「宇宙と愛について」のシヨッキンな記事を掲載すると予告しましたが、これは読者に恐怖心を起こさせると思われる所以掲載を中止しました。ご了承下さい。

しかし宇宙哲学的にはこの世に恐怖すべき物は何もありません。

★37頁の予告どおり、よいよアダムスキー全集第七卷が5月中旬より順次刊行されます。金集最終改訂の上、插入り上製本となりますので皆様方の書架にぜひおろえ下さい。この動きがわらいと発行中止になるおそれもありますから会員の方々は協力の意味でこそつてお求め下さるようお願いします。

就本運動を始めよう!

アダムスキー全集発行を機に、日本GAP各支部間で図書館や学校等へ寄贈する運動が展開しつつあります。これも知らせる運動の重要な一端をなすものです。特に第一巻「宇宙からの訪問者」が最重要です。ご協力下さい。

★今夏八月実施の日本GAP企画第五回「エルサレム宇宙考古学の旅」は好評裡に申込者

編集後記

本誌は月刊で、毎月の発行数は約5000冊です。この調子なら三十名を超えるでしょう。

が増加し、四月八日現在で十五名に達しています。この調子なら三十名を超えるでしょう。

本号39頁の広告には実施期間を八月十三日より二十一日までの九日間となっていますが、出発が一日早くなつて八月十二日(金)の午後五時離陸となりました。しかし費用経額は変わりません。また申込金の五万円は別途料金ではなく費用の一部分に充当するもので、キヤンセルした場合は返されますから誤解なきよう。地方の書店卸しにご協力下さる方は日曜二十九日に東京で第一回旅行説明会が開催されますから、本号36頁の案内をご参照の上、

参考中の方も一応ご出席下さい。

★本誌を書店に直接卸して店頭で販売する運動が会員五十名強の方によりすすめられています。地方の書店卸しにご協力下さる方は日本GAPまでご一報下さい。脱稿期をお送りします。これは利益を追求するためではなく

実の宇宙のカルマをもつ方が店頭で本誌を発見して覚醒の目的とするものです。

★去る二月四日には日本GAP幹事部の代表・中根豊氏がRABラジオ「おおもりTODAY」に出演、続く二月十九日にも同じくRABラジオ番組「土曜スペシャル」に同氏と他の数名の会員が出演して、青森支部の活動状況がノン・フィクションとして放送されました。

★今年七月と八月のみ東京公演の会場を東京文化会館から皇居北の丸公園の科学技術館へ移しますからお間違いなきよう。地下鉄東西線で竹橋駅下車、徒歩三分。タクシーは東京駅丸の内側より約十分、料金五百円台。会館入口の向かって右側のエレベーターへ六階へ。日時は両月共第一土曜日午後二時からです。

(K)

日本GAP機関誌・季刊
宇宙哲学とUFO
発行元 久保田八郎
〒133 東京都江戸川区本一町338-1 818 P 郎
TEL (03) 651-0959 12
振替東京4-35912
定価700円 送料200円
一九八三年四月二十日発行

宇宙哲学とUFO
夏季号
81号